

輝の会活動実績

滝 沢 輝

目 次

徳（磁界エネルギー）生成理論確立
人類救済の基本原理の発見
霊位上昇速度を最大にする方法の発見
圧倒的な霊位上昇速度を実現
輝の会による人類の霊位上昇実績
日本人気は輝の会のはたらき
40代男性人気は輝の会による徳提供の結果
オーラ理解能力を提供した輝の会
人類の若返りを実現
人類の若返りを実現
本尊が創造神界に到達した唯一の宗教
創造神は宇宙神
輝の会守護神（人類全体の守護神霊団）の誕生
生命エネルギーの発見による長寿の実現
天皇陛下を救済した輝の会の長寿サービス
才能の提供
浅田真央さん ～トリプルアクセル復活の秘密
香川真司さん ～ハットトリック達成
ザックジャパンの「個」の力の強調は、才能強化の賜物
がんなどの病気治療
肉食（哺乳類）の危険性を世界に伝えることに成功
風疹消去に成功
エボラ出血熱消去に成功
IT 戦略を提唱した輝の会
不良債権問題を解決した最先端金融経済理論の構築
リーマンショックによる金融経済問題を解決した輝の会
天が認める不良債権解消・景気回復実績
竹中平蔵元金融・経財相に低金利・高名目経済成長率政策の必要性を教授
大手新聞各社に低金利政策の必要性を解説し、低金利政策を推進
白川前日銀総裁の低金利政策は輝の会のアドバイス
アベノミクスの骨子は「マイナス金利の導入」のコピー
莫大な積徳を実現した「マイナス金利の導入」
株などの証券は貨幣価値の多重計上であり、現在価値は存在しないことを証明
最も豊かな経済状態は全ての人の所有金額が0の状態であることを証明
失業率の大幅な低下を実現
最先端の金融・経済理論は無償奉仕の成果
世界で最初にマイナス金利を提言

就業可能日数の発見により安定した雇用環境を実現
金運提供による景気回復の実現
日本人の大幅な賃上げを実現した金運サービス
アメリカの金運を回復した輝の会
科学理論の誤りを証明し、人のつながりを回復
ソチ五輪・浅田真央選手の復活は開運の賜物
AKB48 の開運
東日本大震災による犠牲者のご供養実施
藤圭子さんを救済した輝の会
日航機墜落事故犠牲者救済
台風消去
消去実施台風一覧表
野田首相へ原子力発電全廃を提言
業念による社会の破壊を防止する輝の会
内閣を支える輝の会
北朝鮮のミサイル発射を阻止した輝の会
パナソニック復活を実現
東京オリンピックを実現した輝の会
発見と積徳の連鎖
発見と積徳の連鎖（滝沢の活動実績）
実績の真偽は連続性で判断可能
金運サービスの正当性

輝の会について

滝沢輝の経歴・活動実績

徳（磁界エネルギー）生成理論確立

輝の会では徳（オーラ、磁界エネルギー、人の活動エネルギー）を生成する理論を確立しました。（磁界エネルギー生成方法（教義）ご参照）

徳（磁界エネルギー）は天を構成するエネルギーです。
天では完全調和が実現しています。
徳（磁界エネルギー）は調和のエネルギーなのです。

病気や台風、地震等の災害の原因は不調和な想念エネルギーです。
これらの不調和な想念エネルギーの消去過程で病気や自然災害が発生します。
不調和な想念エネルギーは、徳（磁界エネルギー）で消去することができます。
徳（磁界エネルギー）生成理論を用いて徳を大量に生成すれば、病気や台風、地震等の災害の原因である不調和な想念エネルギーを消去することができます。
その結果、病気治療や自然災害を防止することが可能です。

不調和の解消や、調和状態の実現を行っています。（ほぼ全て無償奉仕活動です）

従来の宗教では、徳を生成する方法を理論的に解明することができなかつたため、神霊に対する祈りや読経を行うことにより、神霊から徳（オーラ）を頂いています。
この方法では神霊から頂ける徳の量が徳（オーラ）生成理論を使う場合に比べて極めて少ないため、病気や自然災害等の不調和の解消効果も極めて少なくなります。

輝の会は徳（磁界エネルギー）生成理論を構築した結果、従来の宗教よりもはるかに効果的な活動を行うことに成功しています。

人類救済の基本原理の発見

徳（磁界エネルギー）を用いて他者の霊位（霊性の高さを意味する。悟りの程度でもある）を向上させると、他者の霊位が向上した分だけ自分自身の霊位が向上します。
自分自身の霊位が向上すると、生成できる徳（磁界エネルギー）の量も増えます。

このように徳（磁界エネルギー）を生成して他者の霊位を向上させ続けると、自分自身の霊位は指数関数のように急激に向上します。
（人類救済の基本原理（教義）ご参照）

他者の霊位向上を継続的に行うことにより自分の霊位が指数関数的に向上するという理論は、輝の会が史上初めて提唱したものです。
これを「人類救済の基本原理」と呼びます。

輝の会では「人類救済の基本原則」を用いて、人類全体の霊位向上を続けています。
(無償奉仕活動です)
その結果、人類全体の霊位は急上昇しています。

「人類救済の基本原則」は世界全体の平和実現の強力な推進力となっているのです。

霊位上昇速度を最大にする方法の発見

輝の会では霊位（霊性の高さを意味する。悟りの程度でもある）向上速度を最大にする方法を発見しました。

これを「霊位上昇速度を最大にする方法」と呼びます。

それは、自分以外の人々の霊位を平等に向上させることです。また、自分以外の人々の積徳量を平等に増やすことです。

人は皆つながっています。ですから、他者に与えた影響は自分自身に戻ります。

大勢の人に影響を与えると、少数の人に影響を与える場合に比べて、自分自身に戻る影響が大きくなります。

ですから、大幅な霊位向上実現するためには、全ての人の霊位向上を平等に実現する必要があります。

この方法を継続すると、自分自身の霊位は急激な向上を続けます。その結果、天界（指導神霊の世界）に到達することさえ可能となります。

仏教では悟りを開き、仏の境地に到達するために様々な修行を行っています。

しかし、他者を悟りに導くことが自身の悟りに直結するとは教えていません。

このように従来の宗教では、

「他者の霊性を平等に向上させることが自身の霊性向上に直結する」

とは教えていません。

むしろ、山籠りや瞑想のように、1人で修行することが多いのです。

その結果、霊位はあまり向上していません。

この点を改善したのが、霊位上昇速度を最大にする方法の成果なのです。

その結果、人類の霊性は急激な向上を始めているのです。

圧倒的な霊位上昇速度を実現

輝の会以前の宗教と輝の会とでは、霊位上昇速度に圧倒的な差があります。

輝の会以前の宗教における霊位上昇速度を徒歩に例えると、輝の会の霊位上昇速度は新幹

線やジェット機以上となります。

輝の会の方が圧倒的に霊位上昇が速いのです。

輝の会の実績をご理解頂きたいと思います。

輝の会による人類の霊位上昇実績

輝の会登場前（2008年以前）に天界（守護神霊の世界）に到達した人の数は、30名未満です。（先祖を含みます）

2014年1月時点で、天界に到達した人は1900億人を超えています。

（地球人類は全体で30～31兆人です）

天界に入る人が急激に増えたのは、輝の会が「人類救済の基本原理」「霊位上昇速度を最大にする方法」を用いて全人類の霊位向上を継続し続けている結果です。

輝の神は、1日24時間、1年365日継続的に徳を生成し続けています。

この徳を用いて全人類（他界した人々を含む）の霊位上昇を常時行っています。

（無償奉仕活動です）

その結果、人類の飛躍的な霊位向上が実現しています。

輝の会では、1年に1回救済実績を更新しています。

昨年記載した内容は、輝の会の救済実績（2013.3.31時点）を参照して下さい。

輝の会が天界に導いた方々は全員輝の会守護神として、輝の会会員の守護や人類全体の調和実現のための働きを行われています。

輝の会守護神の働きにより世界の調和が急速に実現しています。

ミャンマーのアウンサンスーチーさんの解放等も、輝の会守護神が主導したものです。

また、現役人類（身体活動を行っている私たちのことです）の平均霊位等も毎月公開しています。（霊位・積徳量速報 ご参照）

霊位別の人数分布図も公開しています。

（霊位分布図 ご参照）

このように人類の霊位をお知らせする目的は、人類の完全調和（全員が天界に到達した状態）実現という輝の会の目標がどの程度実現したかを数値で表すことです。

輝の会の働きにより、人類が大幅な霊位向上を続けているのです。

日本人気は輝の会のはたらき

輝の会は世界中の人々に徳を送り、活動の活発化や霊位向上を行っています。

(輝の会では「霊位上昇速度を最大にする方法」を実施しています。

「霊位上昇速度を最大にする方法」では、世界中の人々に徳を提供します。)

徳を他者に提供すると、尊敬されたり好感を持たれるのが一般的です。

ですから、輝の会が外国人から尊敬されるのが、本来あるべき状態です。

しかし、外国人で輝の会をご存知の方はそれほど多くないと思われます。

その結果、外国人の輝の会に対する好感度が、日本人全体に対する好感度になっているのです。

また、輝の会は世界中の人々のご先祖様を大勢救済しています。

既に3.3兆人以上の方を救済しています。(地球人類全体で30～31兆人)

救われた方々は輝の会に大変感謝されています。

この輝の会に対する感謝の念は、子孫である外国人にも伝わります。

これが輝の会だけではなく、日本人に対する感謝の念になっているのです。

これらの理由で、日本人は世界中の人々からとても好かれているのです。

日本に観光客が増えている理由も、日本人の人气が高まっているためです。

和食人気、及び和食が無形文化遺産に登録されたも、日本人が好かれていることが、その根底にあります。

輝の会が世界中の人々に徳を提供していることが、これらの主な理由です。

輝の会が世界中の人に施しを続けているため、そのお返しとして、外国人は日本を高く評価しているのです。

日本人気は最近になって急激に高まってきました。

それは、輝の会設立が2008年と最近であり、徳の提供量やご先祖救済実績が急激に増え続けている結果です。

(輝の会設立以前から、徳の提供やご先祖様救済を実施しています。)

人気には徳が必要です。徳があるから、人気があるのです。

徳は施しを行うことにより蓄積されます。

奉仕活動を行えばよいのです。

人々に施しを行うことが、人気を得るためには必要です。

輝の会が世界中の人々に徳を提供し続けることにより、日本人は諸外国から様々なメリットを享受しています。

輝の会の「霊位上昇速度を最大にする方法」は、このように様々な形で日本にも莫大な豊

かさをもちたらし続けているのです。

40代男性人気は輝の会による徳提供の結果

輝の会は世界中の人々に徳を送り、活動の活発化や霊位向上を行っています。

(輝の会では「霊位上昇速度を最大にする方法」を実施しています。

「霊位上昇速度を最大にする方法」では、世界中の人々に徳を提供します。)

その中心として、滝沢(輝の会会長)は日本人全体に莫大な徳を送り続けています。

徳を提供された人は、提供した人に親しみを感じるようになります。

滝沢は40代男性です。

その結果、多くの女性が40代男性に対する親しみを感じているのです。

滝沢が霊位上昇速度を最大にする方法を実施した結果として、40代男性が女性に好かれているのです。

霊位上昇速度を最大にする方法を実施する人は全員、周囲の人々から好かれるようになります。

輝の会会員のメリットなのです。

オーラ理解能力を提供した輝の会

輝の会設立前の人類(現役の70億人程)の平均霊位はほぼ0(人・年)でした。

1(人・年)を超える霊位の人、ほとんどいない状態でした。

(釈迦を超えた日(2001年9月発行) 参照)

菩薩界(現在では霊界3と呼んでいます)の1段目で0.18(人・年)の霊位です)

しかし、現在では人類の平均霊位は8(人・年)を超えています。

以前はオーラを理解できる人が極少数であり、存在を疑問視する人が多かったにもかかわらず、現在では一般的な用語として使われるようになった理由は、人類の平均霊位が向上し、オーラを理解する能力を獲得したためです。

これは、輝の会による霊位向上の結果です。(無償奉仕活動です)

霊位上昇速度を最大にする方法の成果なのです。

人類の若返りを実現

霊位上昇速度を最大にする方法では、徳（磁界エネルギー）を全ての人に提供します。
徳は活動エネルギーです。徳を提供された人は、身体的・頭脳的な活動エネルギーが増えるため、活動量が増加します。

徳の提供実績については 輝の会の救済実績 を参照願います。

最近、若々しい人が増えている最大の理由は、輝の会が提供する徳（磁界エネルギー）です。

提供する徳を減少させると、人々の活動量は急減します。

この事実からも、人類の若返りの理由が輝の会が提供する徳であることは明らかなのです。

2013年の1年間で輝の会が日本人に提供した徳（磁界エネルギー）の量は、1人当たり平均で2000（人・年）以上です。（無償奉仕活動です）

この徳により、人類全体の活動量が大幅に増えています。

これが、高齢のプロスポーツ選手や若々しい老人が増えている最大の理由です。

高齢者が元気になることにより、医療費削減にも貢献しています。

もちろん、若者も元気になっています。

このように、徳を提供することにより人類の若返りを実現し、活発な社会を支えていることも、輝の会の重要な働きなのです。

本尊が創造神界に到達した唯一の宗教

磁界エネルギー生成、人類救済の基本原則、霊位上昇速度を最大にする方法を継続することにより人類の大幅な霊位向上を実現（無償奉仕活動）した結果、輝の神（輝の会本尊、滝沢の霊的意識）の霊位は大幅に向上しました。

その結果、霊位は創造神界に到達しました。

地球人類（30～31兆人）で創造神界に到達したのは、輝の神が初めてです。

従来の正しい宗教の本尊は全て、天界に位置しています。

天界の上位の霊界が創造神界です。

輝の会は本尊（輝の神）が創造神界に到達した人類史上最初の宗教なのです。

従来の宗教（仏教、神道、キリスト教等）の教えは、天界以下の霊界の理解度で構成されています。

輝の神が創造神なので、輝の会教義は創造神界の理解度で構成されています。
その結果、他の宗教が理解できていなかった内容を多数発見することに成功しました。

このように、輝の会教義は従来の宗教よりも高い理解度で構成されています。
理解度は霊位を意味します。
高度な宗教的理解度は、理解した人の霊位を向上させます。

輝の会教義を理解し実践する人は、他者よりも高い霊位に到達することが可能です。

高度な理解度により高い霊位に到達できることが、輝の会の特徴なのです。

創造神は宇宙神

創造神は、輝の会以外の宗教では別の名称で説明されています。

白光真宏会（開祖：五井昌久氏（輝の会守護神でもあります））では、宇宙神と呼ばれる神
霊が、創造神に該当します。（五井氏の著書「神と人間」等に宇宙神の記載があります）
輝の神は、宇宙神なのです。

また、日本神霊学研究会（初代会長：隈本確氏）で「核の超神霊」と呼ばれている神霊は、
創造神です。

このように、名称は異なるものの、創造神の存在を把握している宗教もあります。
しかし、創造神が宗教の本尊となっている宗教は輝の会だけです。

地球人類で創造神界に初めて到達したのは、輝の神です。
その後、1000名以上の輝の会守護神が創造神界に到達しています。

ご理解頂きたいと思います。

輝の会守護神（人類全体の守護神霊団）の誕生

輝の会の導きで天界（守護神霊の世界）に到達した方々は、輝の会守護神として働かれています。（輝の会守護神は1900億人を超えています。（2014年1月時点））

輝の会守護神は人類全体の守護神霊団として、世界の調和実現のために常時はたらかれています。

輝の会守護神には非常に有名な方が大勢おられます。

歴代天皇陛下（昭和天皇まで）全員が、輝の会守護神になられています。
釈迦やイエスも輝の会守護神になられています。
釈迦やイエスを天界に導いたのは、輝の会なのです。
ですから、守護神として活動されているのです。

また、輝の会設立以前から各宗教の本尊として働かされている神霊も、輝の会守護神として働かれています。

大日如来、阿弥陀如来、天之御中主神、ゼウスが該当します。

輝の会の目標である（人類の完全調和の実現）に賛同頂いた結果、守護神として働きを始められたのです。

大勢の元芸能人の方々も、輝の会守護神として働かれています。
石原裕次郎さん、美空ひばりさんらが該当します。

これらの方々と共に活動できることも、輝の会の特徴なのです。

生命エネルギーの発見による長寿の実現

輝の会では生命エネルギーを発見しました。

生命エネルギーとは、生命維持（生理的な活動や運動、頭脳労働等の全て）に必要な徳（磁界エネルギー）のことです。

詳細については 長寿サービスを参照して下さい。

生命エネルギーは、創造神が提供することができるエネルギーです。
天界の神霊は、生命エネルギーを提供することができません。

輝の神は宗教の本尊として初めて創造神になったため、生命エネルギーを提供することができます。

その結果、人の寿命を延ばすことができます。

輝の会では、会員に対して無料で長寿サービスを提供しています。

長寿サービスとは、生命エネルギーを提供することにより、活動量を大幅に増やして積極的な人生を送ることができるようにすると共に、寿命を大幅に延ばして人生を豊かにするサービスです。

これは、他の宗教では提供できない、輝の会だけのサービスです。

天皇陛下を救済した輝の会の長寿サービス

天皇陛下は 2012 年 2 月 18 日に心臓バイパス手術を受けられました。

その後、3 月 4 日に退院されましたが、胸水がたまる症状が続いたため、宮内庁病院で胸に針を刺し胸水を抜く治療を 2 度（3 月 7 日、3 月 20 日）受けられました。

手術後に体調の優れない状態が続いていたのです。

ご高齢になられると、生命エネルギーが減少します。

生命エネルギーは生命維持に必要な生理活動等を司るエネルギーです。このエネルギーが減少すると、手術等からの回復力が極めて弱くなります。

天皇陛下のご回復が遅れていたのは、このような理由によります。

天皇陛下をこの状況から救済させて頂くため、生命エネルギーの提供を開始しました。

4 月 6 日に 1（人・年）（1 年間につき）の生命エネルギーの提供を開始しました。

このエネルギー量は、平均的な 18 歳前後の人が 1 年間に天から提供される生命エネルギーと同じ量です。

その結果、天皇陛下の体調は急回復を遂げられました。

4 月 9 日の検査では胸水の増加は確認されず、4 月 10 日からご公務に復帰されました。

そして 5 月には、エリザベス女王即位 60 年祝賀行事へもご出席されたのです。

その後の陛下のご活躍については、皆様をご存知の通りです。

陛下には現在も生命エネルギーの供給を続けさせて頂いております。

長寿サービス（生命エネルギー提供サービス）は輝の会会員専用のサービスです。

陛下にこのサービスを提供させて頂く理由は、昭和天皇以前のすべての天皇が、輝の会守護神になられているためです。ですから、今上天皇も輝の会会員として扱わせて頂いております。

天皇陛下及び天皇家の皆様の更なるご活躍を祈念いたします。

才能の提供

輝の会では才能を提供しています。これを才能強化と呼びます。

詳細については 才能強化を参照して下さい。

人の才能は全て創造神から提供されています。

天界神霊は才能を提供することができません。

従来の宗教が才能を提供できなかったのは、本尊が創造神界に到達していないためです。

輝の神（輝の会本尊）は宗教の本尊として初めて創造神になりました。
その結果、輝の会は宗教として初めて才能を人に提供することが可能になりました。

最近では、サッカー日本代表選手やフィギュアスケートの浅田選手などに才能を提供しています。（無償奉仕活動です）

その結果、大勢の日本人サッカー選手がヨーロッパ等で活躍しています。
また、浅田選手も出場するほとんどの大会で優勝しています。
これらは、輝の会が提供する才能の効果なのです。

才能を提供された人は、その才能を実現するための練習を行うことが趣味のように楽しくなります。

好きだから継続して取り組み続けます。
その結果、レベルが上がり続け、才能を開花できるのです。

楽しみながら結果を出す事ができる点が、輝の会の才能強化の特徴なのです。

浅田真央さん ～トリプルアクセル復活の秘密

2013年2月9日、フィギュアスケート四大陸選手権で、浅田真央さんはトリプルアクセル（3回転半ジャンプ）を成功させました。（2季ぶりです）。

2012-2013シーズンでそれまでに4勝していた浅田さんですが、トリプルアクセルはなかなか成功しないため、封印していました。

浅田さんが突然トリプルアクセルに成功した理由は何だと思いませんか。

実は、1月上旬と四大陸選手権直前に、浅田さんに対してスケートの才能強化を実施しました。

2回共100万（人・年）の才能を提供しました。

（奉仕活動です。影響力の大きい人をサポートすることにより社会全体を発展させることが目的です。その他にも、輝の会は全ての人に徳を常時送り続けています。）

その結果、浅田さんはスケートの才能が大幅に向上し、トリプルアクセルに成功することができたのです。

浅田さんはバンクーバー五輪において、女子選手としてオリンピック史上初めてトリプルアクセルに成功し、脚光を浴びました。この時の浅田さんのスケートの才能は437万（人・年）程でした。

2012年12月の全日本フィギュアスケート選手権（優勝）時点では、スケートの才能は405万程でした。バンクーバー五輪の時より30万（人・年）以上才能が低下していたのです。これが、トリプルアクセルを成功できなかった最大の理由なのです。

また、浅田さんはバンクーバー五輪時点では19歳でした。
身体構成エネルギーは（一般的には）18歳前後で最大になります。
体力的なピークでこの五輪に参加することができたのです。

2013年時点では、身体構成エネルギーがバンクーバー五輪時点より低下しています。これも、トリプルアクセル成功を困難にしていた主な理由なのです。

2月の四大陸選手権における浅田さんのスケートの才能は、484万（人・年）でした。バンクーバー五輪時の才能を上回っていたのです。

その結果として、トリプルアクセルに成功できたのです。

尚、提供した200万（人・年）の多くは、身体構成エネルギーになりました。スケートの才能を発揮するためには、身体構成エネルギーを増やし、体力を強化する必要があったためです。

以上が、浅田さんがトリプルアクセルに成功した理由です。

尚、浅田さんご本人の努力が才能発揮のために必須であったことはご理解頂けると思います。

輝の神（創造神）が提供する才能強化の徳、及び才能を発揮するための努力が重なる時、奇跡と呼べる程高度な才能さえ発揮することができるのです。

香川真司さん ～ハットトリック達成（イングランドプレミアリーグアジア人初）

マンチェスターユナイテッドの香川真司選手は、3月2日のイングランドプレミアリーグのノリッジ戦で、アジア人初となるハットトリック（3ゴール）を達成しました。

昨年ドイツのドルトムントから移籍後、9月までに2点を記録しました。

しかし、10月にひざを痛めて2ヶ月ほど試合に出られな状況等が続いたため、その後は点を取ることができませんでした。

なぜ香川選手はこの状況でハットトリックを達成できたのでしょうか。

実は、昨年12月末に、香川選手のサッカーの才能強化を行いました。（奉仕活動です）

250万（人・年）の才能を香川選手に提供したのです。

その結果、サッカーの才能が向上し、大量点を狙えるレベルに到達していたのです。

ですから、ハットトリックはごく当たり前の結果だったのです。

昨年10月、けがをする直前の香川選手のサッカーの才能は、338万（人・年）でした。

その後、才能強化によりサッカーの才能は向上し、ハットトリック時には396万（人・年）に到達していました。

超一流選手の仲間入りをしていたのです。

ですから、何点とっても不思議ではなかったのです。

尚、同じマンチェスターユナイテッドのルーニー選手（イングランド代表）のサッカーの才能は397万（人・年）、ファンペルシー選手（オランダ代表）のサッカーの才能は407万（人・年）ですから、香川選手はこれらの選手とほぼ同レベルに到達した状態だったのです。

しかし、香川選手のサッカーの才能は完全には実現していません。

まだ強化の途上なのです。

プレミアリーグ最終戦の香川選手のサッカーの才能は、407万（人・年）に到達していました。

才能強化が全て実現すれば、さらに高いレベルに到達できます。

しかし、徳を過剰に消費すると、才能が減少する場合があります。

（徳の不足を才能の徳で補うためです）

徳の過剰消費を回避し、サッカーに専念すれば、さらに高いレベルのサッカー選手になることができるのです。

香川選手のさらなるご活躍を期待したいと思います。

ザックジャパンの「個」の力の強調は、才能強化の賜物

サッカー日本代表チームの本田選手は、ブラジルワールドカップ(W杯)出場決定後の記者会見（2013年6月5日）で、「個」の力の重要性を力説しました。

W杯で優勝するために何が必要かと問われた際、「個」の力（個人のサッカーの技量）だと回答したのです。

この日以降、日本代表チームは監督を含めて「個」の重要性を唱えるようになりました。

しかし、前回のW杯まで「個」の重要性を強調した選手は記憶にありません。

なぜ急に「個」の重要性が注目されたのでしょうか。

輝の会の「才能強化」がその答えです。

2012年10月16日に行われた、日本対ブラジルの親善試合は、0-4で日本の完敗でした。

珍しく大敗したので、原因究明が必要だと考え、いろいろな確認を行いました。

この試合迄は、監督の積徳量や指導神霊霊位、チーム全体の積徳量などでチームの状態を判断していました。

しかし、この要素だとこれほどの大差がつくとは思えなかったためです。

すると、大変なことに気づきました。

サッカーの技量が日本とブラジルで全く異なっていたのです。

日本代表					ブラジル代表			
選手名	才能				選手名	才能		
	1	2	差	3		1	2	差
本田圭佑	358	378	20	391	フッキ	387	391	4
香川真司 (注)	338	424	86	439	ネイマール	424	434	10
清武弘嗣	318	345	27	356	オスカル	381	387	6
遠藤保仁	338	358	20	369	パウリーニョ	378	386	8
長谷部誠	318	352	34	366	チアゴシウヴァ	382	390	8
長友佑都	368	391	23	402	ダヴィジリス	384	390	6
内田篤人	322	358	36	372	ジゴ・アウヴェス	386	-	-
今野泰幸	288	328	40	337	カカ	378	-	-
吉田麻也	297	338	41	348	ラミレス	382	-	-
川島永嗣	297	328	31	341	アントニオ・カルロス	384	-	-
中村憲剛	328	-	-	357	アドリアーノコレイア	377	-	-
岡崎慎司	-	368	-	381	フレッジ	-	390	-
					グスタボ	-	391	-
平均	325	361	36	372	マルセロ	-	398	-
					ダニエウ・アウベス	-	389	-
					ジュリオ・セザール	-	357	-
					平均	386	391	7

※ 1は親善試合（2012.10.16）におけるサッカーの才能。

※ 2はコンフェデ杯（2013.6.16）におけるサッカーの才能。

※ 差は、2と1の差。才能の向上程度を意味する。

※ 3は現在（2013.7.17時点）のサッカーの才能。

※ 1、2では先発メンバーの才能のみを記載した。

※ 数字の単位は万（人・年）

(注) 香川選手は1では調子が悪かったようです。2ヶ月前にマンU公式戦で初得点した頃は368万（人・年）の才能でした。徳が不足していたため、才能が減少したのです。直後の試合で怪我をしたのは、徳不足で調子が悪かったためだと思われます。

先発メンバー11名のサッカーの才能は表1のようになります。

才能の平均値は、日本代表の325万（人・年）に対し、ブラジル代表は386万（人・年）です。

日本代表よりブラジル代表の方がはるかにサッカーの才能が高かったのです。サッカーの才能が日本代表中で最高だったのは、368万（人・年）の長友選手です。

しかし、ブラジル代表（先発メンバー）の最も才能が低い選手を下回っています。
これでは試合に勝てるはずがありません。

日本代表がブラジル代表に勝てないのは、個人のサッカーの技量に大きな差があるためなのです。

ですから、日本代表がブラジル代表に勝つためには、日本代表選手がサッカーの才能を高め、才能の差を無くせばよいのです。（逆転すれば尚可）

この後、早速日本代表選手の才能強化を開始しました。

2012年中に、1100万（人・年）のサッカーの才能を日本代表選手に提供したのです。

選手1人当たり39万（人・年）の才能を提供したことになります。

また、2013年5月末と6月上旬にも、日本代表チームのメンバーにサッカーの才能を提供しました。

才能を提供された人には、才能を実現する未来が構築されます。

その結果、この人は才能を開花させるための努力を始めます。

常日頃から努力することを心がけるようになります。努力が楽しくなるからです。

日本代表チームのメンバーに才能強化を行った結果、各選手は才能を高める努力を続けていたはずですが。

才能強化を行った理由は、個人別のサッカーの技量が強豪国より低かったためです。

サッカーの才能（技量）を高めないと、ワールドカップで勝つことは極めて困難です。

滝沢のこの考えが、各選手に伝わっていたようです。

それが「個の力」という発言になったのです。

コンフェデレーションズカップでは、ブラジル、イタリア、メキシコ相手に3連敗を喫しました。

その理由は、サッカーの才能が不十分だったためです。

6月に行われたコンフェデレーションズカップにおける日本代表チームの各選手の才能は、表2でお分かり頂ける通り、ブラジルとの親善試合の時と比べて大幅に向上しました。

しかも、才能の向上幅がブラジルの選手よりもはるかに大きくなっています。

（表の差ご参照）

ブラジル代表選手で最も才能が伸びたのはネイマール選手です。10万（人・年）向上しました。

一方、日本代表選手では香川選手が86万（人・年）向上しました。

（香川選手については、個別に才能強化を実施しました。

香川真司さん ～ハットトリック達成 参照）

次いで、吉田麻也選手が41万（人・年）才能を向上させています。
このように才能が大幅に向上したのは、輝の会が実施した才能強化が実を結んだためです。

才能強化は、滝沢が実施してから、実現するまで時間がかかります。
才能強化を実施すると、未来の状態（原型才能）として才能が構成されます。
これが時間の経過と共に、現在の才能（実現才能）になります。

コンフェデレーションズカップでは、2012年に実施した才能強化は実現していましたが、5・6月に実施した才能強化はほとんど実現していない状態でした。

その結果、日本代表チームのサッカー才能の平均値はブラジルに対してだけではなく、イタリア、メキシコに対しても下回っていました。

そして、3連敗という結果になったのです。

サッカーの才能（個人の技量）が他チームより劣っているわけですから、敗戦は実力通りと考えることができます。

選手層の厚さでも、日本はブラジルに劣っています。

ブラジルとの2試合で、日本代表の先発メンバーは10名が同じ選手でしたが、ブラジルは5人入れ替わっています。しかも、ブラジルの各選手は才能がほぼ同レベルです。

ブラジル代表には日本代表選手より上手な選手が大勢いるということです。

主力選手が怪我をしても戦力を維持するためには、選手層を厚くする必要があります。

また、チームの将来のためには、若手を育成することも必要です。

このように選手層を厚くし、チーム内の競争が激しくなると、チームのレベルが上がり、日本がブラジルに勝つ可能性が高くなります。

日本代表チーム各選手の現在の才能を表3に記載しました。

1ヶ月ほどで才能が更に向上していることが分かります。

5月～6月に実施した才能強化によるサッカーの才能が実現し始めていることを、ご理解頂けると幸いです。

才能強化を行うと、時間の経過と共に努力が積み重ねられ、やがてその才能は開花します。

日本代表各選手は才能開花の途上にあるのです。

更に才能を向上させた姿を、来年のブラジルワールドカップで見せて頂きたいと思います。

がんなどの病気治療

輝の会では病気治療を受付けています。これを磁界エネルギー治療と呼びます。

磁界エネルギー治療とは、磁界エネルギーを用いて病気など、肉体の不調和な状態の治療を行うサービスのことです。

詳細については、「磁界エネルギー治療」を参照して下さい。

輝の会では世界中のがん患者に対してがん治療を実施しています、その結果、がんの治療実績が医学の実績を超えました。

医学によるがんの治療実績は、積徳量で 7910 億（人・年）になります。

一方、磁界エネルギー治療による治療実績は、積徳量で 8000 億（人・年）を超えました。

（共に 2013.12.27 時点。創造神界の記録です。

創造神界にはこれらの正確な記録があるのです。）

医学によるがん治療は、世界中の医者が 100 年以上の期間をかけて蓄積した実績です。

一方、磁界エネルギー治療は 2012 年に開始したばかりです。まだ 2 年目にすぎません。

これは、磁界エネルギー治療によるがん治療効果が、医学よりも格段に優れていることを意味します。

磁界エネルギー治療は様々な病気を対象としています。

がん以外にも、統合失調症、認知症、アトピー性皮膚炎等で治療実績があります。

認知症でさえ、症状を大幅に改善することに成功しました。

2013 年に流行した風疹を消去したのも、輝の会です。

風疹消去のために 37 億（人・年）の徳（磁界エネルギー）を提供しました。

磁界エネルギー治療の効果をご理解頂きたいと思います。

磁界エネルギー治療の無料サービスを実施中です。

ぜひお試しくださいと思います。

肉食（哺乳類）の危険性を世界に伝えることに成功

2015 年 10 月 26 日に、世界保健機関(WHO)は哺乳類の肉食の発がん性を認定しました。

ソーセージなどの加工肉が大腸がんのリスクを高め、哺乳類の赤身肉にも同様のリスクがあるとのレポートを発表したのです。

加工肉をたばこやアスベスト同様、がんとの因果関係を示す「十分な根拠が」認められるグループに分類しました。

哺乳類の赤身肉を「恐らく発がん性がある」とされるグループに分類しました。

具体的には、牛肉、ラム肉、豚肉など哺乳類の肉には発がん性を示す「限定的な根拠」がみられると指摘しました。

輝の会は、哺乳類の肉食の危険性を以前から指摘してきました。

「5次元理論」(2003年2月出版)で、

「現在では肉は食品として一般社会に通用していますが、これも「5次元理論」確立後の社会においては、食品と見なされなくなるはずです。

肉にもいろいろな種類があるのですが、哺乳類は食品として成立していないようなのです。感覚的に判断できるのですが、非常に歪んだ雰囲気の内包しています。・・・}

と記載しました。

当時、私の周囲に「肉食(哺乳類)は体に悪い」という人はいませんでした。

マスコミ等を通じて肉食(哺乳類)の危険性を伝える人も皆無でした。

豚肉や牛肉は体に良い食品だと見なされていたのです。

ですから、上記の内容を発表することは大変なことでした。

そして、5次元理論第4巻では「肉食(哺乳類)によるがんの発生」を記載しました。

また、磁界エネルギー治療でも、肉食(哺乳類)をがんの原因として説明しています。

今回、世界保健機関(WHO)が哺乳類の肉食の発がん性を認定した理由も、輝の会が肉食(哺乳類)の危険性を広めたことです。

もし輝の会がこのはたらきを行っていなければ、未だに肉食(哺乳類)の危険性は社会に広まっていなかったはずです。

このように輝の会が哺乳類の肉食の危険性を広め続けた結果、非常に多くの人の命が救われました。

既に3.6億人以上の人の命がこの発表により救済されています。(天の記録です)

このように、輝の会は常に人類の不調和(病気等)を消去し、社会を調和・安定させるはたらきを継続しています。

輝の会の役割をぜひご理解いただきたいと思います。

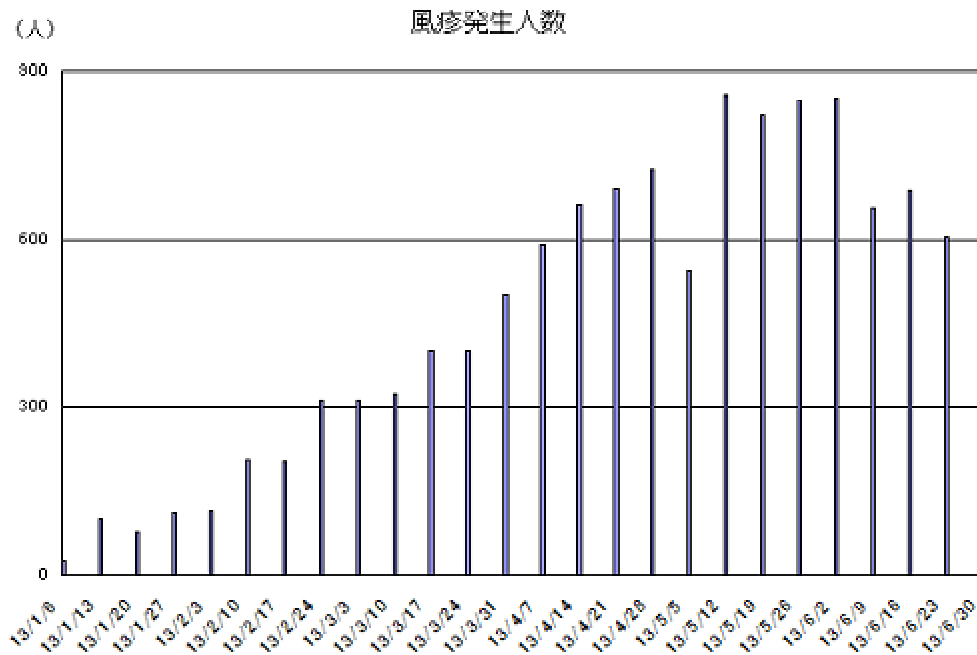
風疹消去に成功

今年は風疹が流行しています。

しかし、ピークは超えました。

6月24日～6月30日の1週間の新規風疹患者数が359人となり、前週まで10週間（ゴールデンウィークを除く）続いていた週600人以上から大幅に減少したためです。

（国立感染症研究所発表）



しかし、なぜ風疹患者数が突然減少したのでしょうか。

その理由は、滝沢（輝の会会長）による風疹消去です。

病気の原因は、業念（人の不調和な想念・行為）です。

病気が流行する場合、その原因となる業念が大量に蓄積されています。

その消去過程として病気が流行するのです。

ですから、病気の流行を止めるためには、この業念を消去すればよいのです。

6月23日時点で、日本の風疹流行の原因となる業念は、5.7億（人・年）程でした。

台風発生原因の業念とほぼ同程度のエネルギー量になります。

（消去実施台風一覧 ご参照）

この業念を徳（磁気単極子エネルギー）を使い全て消去しました。（6月23日のことです）

ですから、風疹の原因となる業念消去後の風疹患者数（6月24日～6月30日）激減の報告は、予想通りでした。

病気が流行した時に、その原因となる業念を消去して流行を抑えるのは、今回が初めてで

はありません。

毎年冬になるとインフルエンザが流行します。

その都度原因となる業念を消去し、流行を抑える働きをしています。

このように、病気の流行を阻止することは、滝沢にとっては当たり前の作業なのです。

病気は実在しません。

天界以上の世界（世界の原型を構成する世界）には、病気は存在しないのです。

病気は発生するのは、天界未満の世界で、人が不調和な想念を発したり、不調和な行為を行うためです。

世界は人の意識で構成されています。不調和な想念は不調和な状況の原因となります。

その結果、本来実在しない病気が現れてくるのです。

しかし、徳（磁気単極子エネルギー（S極））により不調和な想念（磁気単極子エネルギー（N極））を消去すれば、病気の原因は無くなります。その結果、病気は消去されます。

磁界エネルギー治療では、がんや統合失調症等の難病の治療を受け付けています。

しかし、磁界エネルギー治療はこれらの病気以外の病気にも治療効果があります。

風疹に効果があることは、今回の報告でご理解頂けるとおもいます。

また、磁界エネルギー治療は、個人に対してだけでなく、広く社会全体に流行する病気に対しても治療効果があります。

今回の風疹患者減少は、その一例に過ぎません。

このように、輝の会の磁界エネルギー治療は様々な病気治療に極めて効果的です。

皆様のお申込をお待ちしております。

エボラ出血熱消去に成功

8月から継続していたエボラ出血熱消去を、10月28日に終了しました。

エボラ出血熱の感染者が急増した理由は莫大な業念です。

10月28日に、この業念の消去が完了しました。

よって、エボラ出血熱は感染拡大以前の状態に戻っています。

ですから、輝の会はエボラ出血熱消去を終了しました。

エボラ消去目的で使用した徳の量は、合計で136兆（人・年）に達しました。

8月26日時点（エボラ出血熱消去開始 ご参照）では、エボラ感染拡大の原因である業念の量を7.88兆（人・年）としましたが、実態はさらに深刻でした。

台風19号（2014年に地球で発生した最大の台風。最低気圧900hPa）消去で使用した徳の量は約28兆（人・年）です。（消去実施台風一覧表 ご参照）

エボラ消去で使用した徳の量は、この約4.9倍に匹敵します。

年間最大の台風を4～5個消去できるほど莫大な徳を提供することにより、エボラ出血熱の感染拡大原因である業念消去を完了しました。

10月に入ると、滝沢（輝の会会長）の霊格は8月26日時点よりも上昇したため、エボラの原因業念の全貌を、8月26日時点よりも正確に把握できるようになりました。

この時点で、エボラの業念の残量は87兆（人・年）でした。

業念がかなり多かったため、業念消去のペースを上げました。

（台風19号消去終了後の10月中旬以降のことです）

その結果、10月28日には、この業念の消去を完了しました。

エボラ出血熱感染拡大の原因エネルギーをすべて消去することに成功したのです。

WHOは10月29日、感染被害が最も深刻なリベリアで「新規感染が減っている」と指摘しました。

エボラの原因である業念の消去が進んだ結果、リベリアでも新規感染者が減少に転じていたのです。

エボラ感染拡大原因の業念が無くなったので、今後莫大な感染拡大は起こらないはずです。徐々に事態は収束すると思われれます。

尚、今回の業念消去で輝の会は3868人の命を救済しました。（天の記録です）

（これらの方々は、業念消去を行わなければ命を落としていました。）

当初7割程度と考えられていたエボラの致死率が低下したのは、輝の会が大勢の人々の命を救済した結果なのです。

輝の会の重要性をぜひご理解頂きたいと思います。

IT 戦略を提唱した輝の会

滝沢（輝の会会長）は1989年から2000年まで、さくら銀行（現、三井住友銀行）で働いていました。

入行時の銀行名は三井銀行でした。

銀行の合併により、銀行名が太陽神戸三井銀行～さくら銀行に代わり、2001年には三井住友銀行になりました。

この銀行では入行して7年目で主任になることができました。
6年目までは役職はありません。
ですから、入行6年目（1994年度）は人事部による振り分けが行われる時期でした。

昇格試験が行われたり、複数回の人事部面接が行われたのです。
その結果、同期入行のかなり多くの人が、主任になることができませんでした。
尚、滝沢は退職までストレートで昇進しました。（退職時は調査役でした）

私がネットバンクをさくら銀行に提言したのは、この人事部面接の時です。
システム部に所属していた私は、面接官に提言しました。

以下は提言内容です。

システムを戦略化すべきです。
システムは工夫しなければ単なる事務処理の道具ですが、これを戦略化して活用すれば、
銀行の力になります。

具体的には、パソコンを銀行にすればよいのです。
パソコンで顧客と銀行をつなぐのです。
今は通信環境が整っていますから、技術的には可能です。
そして、パソコンの画面を銀行にします。

「第三の波」という本で、アメリカの未来学者であるアルビン・トフラーが情報通信革命
が起こると説明しています。

第一の波は農業革命です。
この革命により、定住が進みました。
第二の波は、産業革命です。
この革命により、都市部に人口が集中するようになりました。

そして第三の波は情報通信革命です。
通信網の発展により自宅と会社がつながるため、人は自宅でも働くことができるようにな
ります。

今が正に、この情報通信革命が起こる時期です。
具体的には、社会の全機能がパソコンにのります。
パソコン上に新しい社会ができます。

ですから、パソコン上で銀行を使えるようにすればよいのです。
銀行の全機能をパソコン上で使えるようにすれば、利便性が高まるため、集客力も高くな

ります。

顧客獲得競争を有利に進めることができます。

提言した内容は、概ね上記の内容になります・

但し、提言したのは 20 年以上前ですから、細かい表現までは正確に記憶していない箇所もあります。

概略の紹介ということでご理解頂きたいと思います。

この提言の結果、滝沢は 1995 年 6 月に総合企画部に異動しました。

総合企画部は本部を統括する本部です。役員直下の組織です。

(MOF 担 (大蔵省 (当時) 担当) が私の後ろの席でした。)

ですから、役職の無い状態で総合企画部に配属されたのは、異例といえます。

(1995 年 7 月に主任になりました)

上記提言で人事部評価が上がっていたのが、その理由の 1 つと思われます。

また、さくら銀行は日本初のインターネット専門銀行 (ジャパンネット銀行) を設立する等、IT 戦略で銀行業界のトップを独走しました。

その理由は、ネットバンクを最初に提唱したのが滝沢であり、提唱した銀行が勤務先であるさくら銀行だったからです。

尚、滝沢が提言する前にネットバンクについて語る人は、当時は誰もいない状態でした。

ネットバンクの提唱者は滝沢なのです。

そして、ネットバンクが各産業界への IT 導入や日本の IT 戦略へつながりました。

ネットバンク提唱が日本の IT 戦略の原動力なのです。

以上の説明でご理解頂ける通り、IT 戦略を提唱したのは滝沢です。

輝の会を創設したのは滝沢です。

ですから、輝の会が IT 戦略を提唱したことになります。

日本に IT 戦略の恩恵を提供したのは輝の会なのです。

不良債権問題を解決した最先端金融経済理論の構築

輝の会では最先端の金融経済理論を構築しました。

これらの理論が、最近の金融経済問題の解決策として大量に採用されています。

最近の金融経済問題を解決しているのは、輝の会なのです。

2003年に「マイナス金利の導入」という論文を発表しました。

金利と名目経済成長率が一致することを解明し、1990年代以降の日本の不景気や不良債権の原因が高すぎた金利水準であることを明示したのです。

1990年代から「マイナス金利の導入」発表までの間、金利は経済成長率より2%以上高い状態が続きました。

この金利差と銀行の貸出残高を掛けると、不良債権と同等の金額が算出されます。

これは、不良債権の原因が高すぎた金利水準であることをしてい証明しています。

日銀の金融政策（日銀による金融面の経済政策のこと。金利水準を誘導）が不良債権問題の原因だったのです。

「マイナス金利の導入」を日銀や各種大臣に送付し、不良債権問題の原因が高すぎた金利水準であることをお知らせしました。

そして、低金利政策が実施されると、数年で不良債権問題は解消しました。

これは、不良債権の原因が高すぎた金利水準であることの証明となっています。

このように、**日本が10年以上解消できずに苦しんだ銀行の不良債権問題を解決したのは、輝の会教義の金融経済理論なのです。**

リーマンショックによる金融経済問題を解決した輝の会

リーマンショックで全世界的な金融危機が発生した際、対応策として採用されたのは日本の不良債権対策でした。

日本の不良債権問題が解決したので、リーマンショックによる不良債権問題を同じ手法で解消しようとしたのです。

日本の不良債権問題が解決したのは、「マイナス金利の導入」で高すぎた金利水準が原因であり、金利を下げることにより問題を解決できることを理論的に解明したからです。

同じ手法を使ってリーマンショック対策に欧米各国が成功したということは、輝の会教義がリーマンショックの解決策を提示したことを意味します。

このように、輝の会はリーマンショックによる金融危機から世界各国を救済したのです。

天が認める不良債権解消・景気回復実績

2004年のことですが、会社から帰宅中の私に、神霊がさりげなく伝えてくれました。
「大勢の人が参拝して景気回復を感謝しています。」

神社・仏閣の指導神霊が、私にこのことを伝えて下さったのは、景気回復のために最も貢献したのが滝沢（輝の会会長）だということをご存知だったからです。

景気回復は低金利政策により実現しました。

その必要性を理論的に解明し、論文「マイナス金利の導入」を作成し、政府や日銀に伝えたのが滝沢だからです。

天の神霊から見れば、景気回復が「マイナス金利の導入」により実現したことが明白だったのです。

ですから、本来は滝沢が感謝されるべきなのですが、ほとんどの人は

「景気回復に最も貢献をした人物が滝沢（輝の会会長）である」

という事実を知らないため、代わりに神社や仏閣でお礼を言っていたのです。

神社・仏閣の指導神霊が滝沢に景気回復のお礼について教えて下さったのは、以上の理由によります。

「マイナス金利の導入」は不良債権問題解決・景気回復の原動力となりました。

そして、リーマンショック対策で使われた低金利政策の理論的根拠も、「マイナス金利の導入」なのです。

しかし、「マイナス金利の導入」の作成は、完全な奉仕活動です。

滝沢は大学教授等の専門家ではなく、所属する機関もないため、自宅で無償でこの論文を作成しました。

既に「マイナス金利の導入」執筆から10年以上経過していますが、作成による対価を1円も受取っていません。

「マイナス金利の導入」により全世界で生み出された経済的価値は、数千兆円に達するはずですが。

しかし、その論文は完全な無償奉仕活動で作成されたのです。

貨幣制度が正しい制度と判断されている理由は、所有貨幣残高が仕事量を表していると考えられているためです。

しかし、「マイナス金利の導入」の例でお分かり頂ける通り、受領貨幣量と仕事量は全く相関が無い場合が多いのです。

ですから、貨幣所有者を優遇する現在の経済制度は誤りなのです。

貨幣制度は廃止すべきです。（天意です）

竹中平蔵元金融・経財相に低金利・高名目経済成長率政策の必要性を教授

2003年6月24日の自民党総務会で、それまで実質成長率を重視してきた竹中平蔵金融・経済財政担当大臣（当時）が「名目（成長率）を大事にする」と発言しました。

月刊誌に竹中氏を直ちに更迭するよう求める論文を寄稿するなど激しい「竹中批判」を続けていた堀内光雄自民党総務会長（当時）は、この発言を受けて

「考え方相当変わった」
と一定の評価をしました。

以上の説明から、銀行の不良債権対策や景気対策に対する名目経済成長率の重要性を、竹中氏が2003年6月時点まで理解できていなかったことが分かります。

竹中氏が名目経済成長率の重要性を真に理解したのは、2003年7月に滝沢（輝の会会長）が竹中氏に「マイナス金利の導入」を送付したためです。

同書の中で

「名目経済成長率と金利水準は一致すべきである」

「1990年代以降、金利水準が高すぎる状態が10年以上続いている」

「銀行貸出残高に金利と名目経済成長率の差を掛ければ100兆円以上の金額を算出できる。これは不良債権発生総額とほぼ一致する」

「名目経済成長率以上の金利水準が不良債権発生の本当の原因である」
等を記載しています。

これらの内容は全て滝沢が発見した内容です。

それまでの金融経済理論には存在しなかった理論ばかりです。

この内容により、竹中氏は

「名目経済成長率と金利水準の関係を逆転させ、名目経済成長率を金利水準以上にすることにより、不良債権対策や景気対策が可能である」

ということを理解したのです。

以上の説明から、

「名目経済成長率を高めて金利水準以上を目指すべきである」

という経済財政諮問会議等における竹中氏の主張は、滝沢が「マイナス金利の導入」で竹中氏に教えた内容であることをご理解頂けると思います。

大手新聞各社に低金利政策の必要性を解説し、低金利政策を推進

2005年の春に景気が回復した時、金利を上げるべきかどうかで大手新聞社の意見が分かれました。

朝日、読売、日経等が金利引上に慎重な意見を発表したのに対し、毎日新聞だけは「景気

が回復したのだから金利を引き上げるべきである」と主張したのです。

サンデーモーニングで毎日新聞の岸井成格さんは

「他社（朝日、読売、日経）が何故金利引上げに慎重な意見なのかは分からない。うち（毎日新聞）は景気が回復したら金利を引き上げるべきとの意見です」という内容の発言をしていました。

実はこの時までに朝日、読売、日経の3新聞社には「マイナス金利の導入」を送付済でしたが、毎日新聞には送付未済でした。

（「マイナス金利の導入」の送付先一覧 参照）

毎日新聞だけは定期購読をしたことが無かったため、必要性をあまり感じなかったためです。

その結果、銀行の莫大な不良債権及び不景気の原因が高すぎた金利水準であることを、朝日、読売、日経の3社が理解できていたにもかかわらず、毎日新聞だけが理解できていなかったのです。

ですから、3新聞（朝日、読売、日経）の金利引上げに慎重な意見に対し、毎日新聞だけが金利引上げに積極的な意見を主張していたのです。

日銀の低金利政策でようやく景気が回復してきた頃のことです。

金利を上げたら元の不景気に戻ってしまいます。

ですから、急いで「マイナス金利の導入」を毎日新聞社に送付しました。

「マイナス金利の導入」の過去の送付先や経緯等についても同封しました。

しばらくすると、毎日新聞の社説が変化しました。

「金利水準は景気の状態に合わせてゆっくりと変化させるべきである。急に上昇させるべきではない。」

という内容に変わったのです。

これは「マイナス金利の導入」の内容を反映させたものです。

毎日新聞も他の新聞社同様、「マイナス金利の導入」の内容を正しいと認め、「金利を引き上げるべきである」という社説を変更したのです。

従来の金融経済理論では、好景気になったら金利を上げるべきと教えています。

「名目経済成長率と経済成長率が一致すべきであり、1990年代以降の不良債権や不景気の原因が高すぎた金利水準である」と人類史上初めて解説したのが、「マイナス金利の導入」だという事実を、毎日新聞の社説の変化からもご理解頂けると思います。

2003年以降に低金利政策の必要性を説き、実現に導き、銀行の莫大な不良債権問題や不景気を解消したのは「マイナス金利の導入」なのです。

その重要性をご認識頂きたいと思います。

白川前日銀総裁の低金利政策は輝の会のアドバイス

白川前日銀総裁は2008年の日銀総裁就任時のインタビューにおいて、政策金利0.5%への認識として、「潜在成長率よりずいぶん低い」という見解を示しました。

金利引上げを念頭においた発言だと思われます。

しかし、1990年代以降の日本における不良債権の原因は高すぎた金利水準です。

高い金利が日本の金融経済を破壊していたのです。

金利を引上げれば、再び日本経済が不景気になるのは明らかです。

では、なぜ白川前日銀総裁は金利を引上げようとしたのでしょうか。

白川氏は、1990年代以降に発生した民間銀行の不良債権の原因が「名目経済成長率よりも高い金利水準」である事実を、滝沢（輝の会会長）が2003年に福井元日銀総裁に「マイナス金利の導入」を郵送してから5年近く経過しても理解できていなかったのです。

白川総裁は金融経済の専門家中の専門家です。

この方でさえ、「金利と名目経済成長率は一致すべきである」「不良債権発生原因は高すぎた金利水準である」という「マイナス金利の導入」で発表した新理論を、日銀総裁就任時にはご存知なかったのです。

日銀総裁の間では、このような知識の引継ぎは行われないうです。

この事実からも、「金利と名目経済成長率は一致すべきである」「不良債権発生原因は高すぎた金利水準である」等、日本の不良債権問題解決やリーマンショック対策で必須の知識は、滝沢が発見した新理論であることをご理解いただけたと思います。

白川前日銀総裁の金利引上を放置すれば、日本が再び高すぎる金利水準により不景気に陥ることは明白です。

急いで白川総裁に対して「マイナス金利の導入」を送付しました。

「マイナス金利の導入」の過去の送付先や経緯等についても同封しました。

その結果、白川前日銀総裁時代には政策金利の引上げは行われませんでした。

逆に、リーマンショック対策等で政策金利は下げられたのです。

「金利と名目経済成長率は一致すべきである」という「マイナス金利の導入」で発表した新理論が採用され、政策金利は下げられたのです。

このような低金利政策の必要性を白川前日銀総裁にアドバイスしたのは輝の会です。

教義「マイナス金利の導入」が、日本をリーマンショックの危機から救ったのです。

アベノミクスの骨子は「マイナス金利の導入」のコピー

アベノミクスは、低金利高経済成長政策です。

低金利を日銀の国債等の大量購入による金融緩和で実現し、高経済成長を2%のインフレ目標や財政政策で実現する政策です。

経済学の教科書では、好景気時には金利を上げるべきだと記載されています。

ですから、低金利高経済成長政策は従来の経済学の理論から導かれた政策ではありません。

低金利高経済成長政策は、滝沢（輝の会会長）が2003年に著書「マイナス金利の導入」で発表した政策です。

その概要は、以下の通りです。

「金利と名目経済成長率は本来一致すべきである。しかし、1990年代以降、10年以上金利が高すぎる状態が続いた。これが、債務者の過剰な金利負担となり、不良債権が大量に発生した。よって、名目経済成長率と金利の関係を逆転させ、低金利高経済成長を実現すべきである。」

この発表以降、この低金利経済成長政策が実施され、不良債権問題はすぐに解決し、好景気が実現しました。

以上の説明で、アベノミクスの骨子（政策の最重要箇所）が「マイナス金利の導入」で滝沢が提言した政策のコピーだということをご理解頂けると思います。

アベノミクスでは低金利や高経済成長実現する方法が、「マイナス金利の導入」よりも細かく指定されています。

しかし政策の最も重要な「低金利・高経済成長」は、滝沢が提言した内容そのものなので

です。ですからアベノミクスは、滝沢が提言した内容に補足を加えた程度の内容なのです。

もちろん、安倍首相のオリジナルの政策と言えるものではありません。

（コピーにすぎません）

また、アベノミクスでは、「マイナス金利の導入」で提言していない政策が行われています。

その1つが、日銀による証券の大量購入です。

しかし、将来キャッシュフローが価値の源泉である証券には現在の価値がありません。これらの証券の存在自体がバブルなのです。

（証券は貨幣価値の多重計上 参照）

ですから、日銀がこれらの証券を大量に購入することは、バブル拡大につながります。

その結果、金融・経済は不安定になります。

このように、アベノミクスの柱である日銀による証券購入は、経済にマイナスの影響を与えています。

アベノミクスで日本の経済が回復傾向にあると考えられていますが、その理由はアベノミクスの骨格である「低金利高経済成長政策」にあります。

しかし、これは滝沢が「マイナス金利の導入」で2003年に自民党に提言した政策です。

滝沢が提言した政策の名前をアベノミクスに変更することにより、政策提言者が安倍首相のように思われていますが、これは誤解です。

「低金利高経済成長政策」の提言者は滝沢です。

これは従来の金融・経済理論には存在しない政策です。

提言者が滝沢ですから、「低金利高経済成長政策」による景気回復は滝沢の成果になります。

実際、「マイナス金利の導入」を発表し、景気が回復したことにより、滝沢には莫大な徳が蓄積されています。(天の記録です)

莫大な積徳を実現した「マイナス金利の導入」

著書・政策	積徳量	説明
マイナス金利の導入	1786 京 (人・年)	輝の会以外の日本人の積徳量の 470 倍
アベノミクス	マイナス	

表に「マイナス金利の導入」により滝沢（輝の会会長）に蓄積された徳の量と、アベノミクスにより関係者に蓄積された徳の量を記載しました。

(本文記載時点までの積徳量) 「マイナス金利の導入」により、滝沢には1786京(人・年)の徳が蓄積されています。(日々増加しています)

これは、輝の会以外の日本人の積徳量合計の470倍の徳の量になります。

「マイナス金利の導入」の内容は、英訳を2013年3月に本ホームページで公開したため、欧米でも急速に広がっています。

最近ヨーロッパで低金利政策やマイナス金利政策が広がり始めた理由も、「マイナス金利の導入」の影響なのです。

一方、アベノミクスでは関係者に徳は蓄積されていません。

逆に、アベノミクスの責任者は徳を失っている状態です。

日銀による証券購入や物価上昇は、経済悪化要因です。

経済を悪化させれば、責任者は徳を失います。

アベノミクスにより経済が回復していると考えられているようですが、本当に効果を発揮しているのは「低金利高経済成長政策」です。

これは滝沢が「マイナス金利の導入」で提言した政策です。

誰かが提唱した政策をコピーして成果があったとしても、コピーした人の成果にはなりません。(政策をコピーした人には、政策を構築した人に蓄積される徳は蓄積されません)。最初に政策を提言した人の成果になります。

「マイナス金利の導入」で低金利高経済成長政策を提言した滝沢には莫大な徳が蓄積されています。

一方、アベノミクスの低金利高経済成長政策による成果は、徳としてアベノミクス関係者に蓄積されていません。

これらの事実から、アベノミクスの骨格である「低金利高経済成長政策」が「マイナス金利の導入」のコピーだということを、ご理解頂けると思います。

評価されると徳を失います。(徳と魅力の関係 ご参照)

アベノミクスで経済が回復し、国民から高く評価される場合、アベノミクス関係者は徳を失います。

政策の成果として徳が蓄積される場合、評価されて一部の徳を失っても問題ありません。しかし、政策の成果としての徳が蓄積されない場合に評価されると、以前から蓄積されていた徳が減少します。

これは将来の運気が損なわれることを意味します。

また、身体消滅時に積徳量がマイナスだと、霊位マイナスの世界に移行します。通常の霊界に入れない状態になるのです。

ですから、成果としての徳が蓄積されない政策で、多くの人々から評価を受けることは、極めて危険な行為なのです。

このような態度は、その人自身を傷つけます。

ですから、避ける必要があります。

株などの証券は貨幣価値の多重計上であり、現在価値は存在しないことを証明

株は貨幣価値の多重計上です。その価値の源泉は、現在誰かが保有している貨幣です。ですから、現在価値はありません。

今は株に現在価値があるという前提で株の売買が行われていますが、これが間違いであることは「フラクタル経済理論」で理論的に証明済みです。

株のように将来受取るキャッシュフローに価値の源泉がある証券の現在価値は0になります。

バブルという言葉があります。

バブルとは、これらの証券のことなのです。

貨幣価値を多重計上して証券の価値が構成されているため、多重計上をやめると価値がなくなります。

これが実現した状況をバブル崩壊と呼びます。

バブルとは、このような証券の価値のことを意味するのです。

金融危機はバブル崩壊が発端となります。

金融危機を回避し、安定した経済運営を実現するためには、バブル崩壊を回避する必要があります。

そのためには、将来受取るキャッシュフローに価値の源泉がある証券を廃止する必要があります。

輝の会では「金融・経済制度の全面改訂（フラクタル経済理論の第1章）」において、この事実を史上初めて理論的に解明し、2008年に発表しました。

そして、各方面に配布しました。（無償奉仕活動です）

2008年にリーマンショックが起こった時、原因が何なのか誰にも分からなかったため、不安が社会全体を包み込みました。

このような不安が続くと社会がパニックに陥る危険がありました。

この危険な状況を回避し、金融経済の正確な理解広めるために、「金融・経済制度の全面改訂」を各方面に送付したのです。

その結果、リーマンショックの原因が、

「証券が元来貨幣価値の多重計上であることによるバブル崩壊である」という理解が広まりました。

リーマンショックの原因が明確になったため、社会には安心感が広まり、パニックを回避することができたのです。

このように、輝の会は社会全体に正しい金融経済理論を広めることにより、社会の安定・発展に貢献し続けています。

最も豊かな経済状態は全ての人の所有金額が0の状態であることを証明

教義「フラクタル経済理論」の中で、最も豊かな経済状態は、全ての人の所有金額が0の状態であることを理論的に証明することに成功しました。

全ての人の所有金額が0の状態を続けるための最善の方法は、貨幣制度を廃止することです。

貨幣制度を廃止すると、最も豊かな経済状態を実現できます。

貨幣制度を廃止すると、貧富の格差が解消されます。

「フラクタル経済理論」は、貧富の格差を無くした状態が最も豊かな経済状態であることを理論的に証明することに成功したのです。

2009年8月に「フラクタル経済理論」を政治家や有識者に配布したことにより、「経済格差を無くすべきである」という風潮が社会全体に広まりました。

そして、これが様々な政策として実現されました。

以前、「勝ち組、負け組」という言葉が流行しました。これは、

「経済格差は当事者の責任によるものであり、当然の結果である。格差はあるのが当然である。」

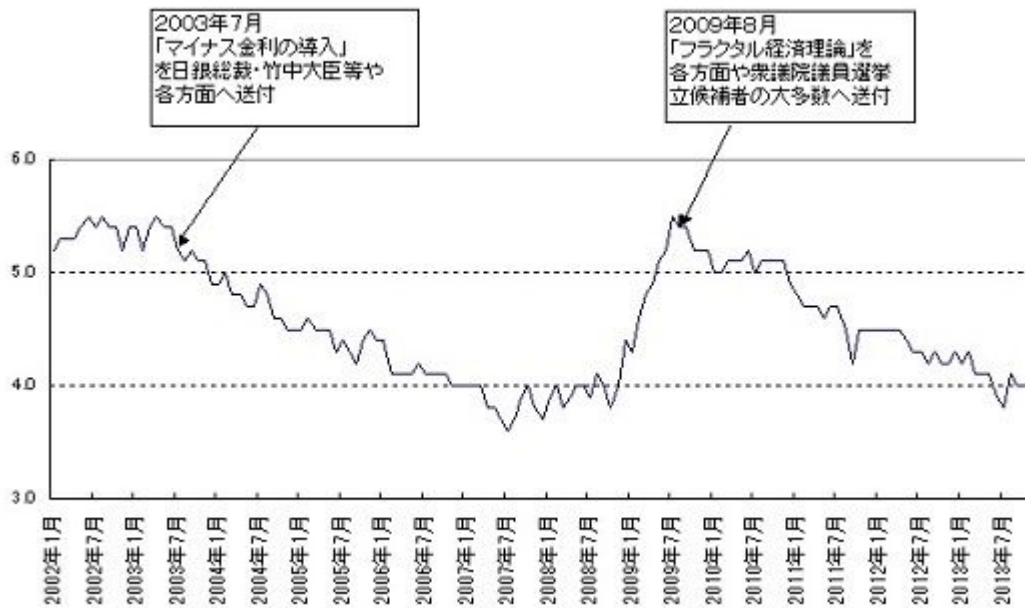
という当時の風潮を表しています。

現在、「勝ち組、負け組」という言葉が使われなくなったのは、「経済格差を無くすべきである」という風潮が広まったためです。

その根拠は「フラクタル経済理論」にあります。

輝の会の教義が、「経済格差を無くすべきである」という考えを常識として広め、格差解消を実現しているのです。

失業率の大幅な低下を実現



日本の完全失業率のグラフを記載しました。

(縦軸は失業率 (%)) 2002-2003年と2009年にピークがあります。

2002-2003年の不景気の主な原因は高すぎた金利水準でした。

2003年7月に、教義「マイナス金利の導入」を日銀総裁や各種大臣や各方面に送付し、金利水準を下げるようにアドバイスした結果、低金利政策が実現し、景気が回復して失業率は低下しました。

2009年の不景気の主な原因はリーマンショックです。

リーマンショックにより、2009年夏に完全失業率は5.5%まで上昇しました。

2009年8月に「フラクタル経済理論」を衆議院議員選挙立候補者や各方面に送付しました。その時から、失業率は低下し続けています。

2013年11月には4%になりました。

「フラクタル経済理論」公開により経済格差を解消するための政策が実行されたため、経済が回復したのです。

その結果、失業率が改善したのです。

グラフからお分かり頂ける通り、失業率がピークに達し、日本経済が危機的状況に陥った時、その解決策を明示し、失業率低下を実現したのは、輝の会教義です。

輝の会が、高失業率の危機的状況から日本及び世界を救済したのです。

このように、輝の会の経済理論は、失業率改善・景気回復などの形で社会に莫大な価値を提供し続けているのです。

最先端の金融・経済理論は無償奉仕の成果

輝の会教義は全て無償で提供されています。

「マイナス金利の導入」ではありません。
「貨幣へのオプション概念の導入」
「外国為替理論の再構築」
「フラクタル経済理論」も無償で提供しています。
対価を一切受領していません。

「フラクタル経済理論」はリーマンショックの原因を解明し、
「全ての人に貨幣を平等に分配すると経済発展速度は最大になる」
「経済圏が大きくなると経済発展速度は速くなる」
「株や証券は貨幣価値の多重計上である（将来キャッシュフローを価値の源泉とする証券）」
等の重要な法則を史上初めて理論的に解明した論文です。

「全ての人に貨幣を平等に分配すると経済発展速度は最大になる」という法則は、経済格差を解消すべきであるとの主張の論拠となっています。

「フラクタル経済理論」発表前は、
「経済格差はあって当然である。能力が高く仕事を多くこなす人の収入が多いのは当然である」という考え方が一般的でした。
しかし、今では経済格差の少なさが社会の成熟度を示す指標だと考えられています。
その理論的根拠を史上初めて提示したのが、「フラクタル経済理論」なのです。

「経済圏が大きくなると経済発展速度は速くなる」という法則は、リーマンショック後に景気対策の分からなかった人々に「海外に進出すればよい」との指針を示した、極めて重要な内容です。

また、TPP等、経済圏を大きくしようとする全世界の流れの正しさを証明する論拠ともなっています。

そして、これらの内容は世界の常識となりつつあります。

これらは人類に必須の知識なのです。
価値の大きさは金額では表すことができないほどです。
しかし、これらは対価無しで作成されました。

以上の例でお分かり頂ける通り、貨幣保有量と社会に対する貢献度は全く一致しないケースが多々あります。

貨幣制度は誤りであるということ、この例からもご理解頂けると思います。

世界で最初にマイナス金利を提言

2016年1月29日に、日銀がマイナス金利の導入を決定しました。

世界で最初にマイナス金利の導入を提言したのは、滝沢（輝の会会長）です。

2003年6月に論文「マイナス金利の導入」を著述し、2003年7月に福井日銀総裁（当時）や竹中大臣、エコノミスト等に送付しました。

（マイナス金利の導入とは <http://taki-zawa.net/mainasu/index.htm> ご参照）

「マイナス金利の導入」では、名目経済成長率と金利が本来一致すべきであることを理論的に解明することに成功しました。

そして、1990年代から2001年までの名目経済成長率と金利水準を比較することにより、銀行の不良債権発生や不景気の本質的な理由が、名目経済成長率より平均で2%以上高い金利水準であることを解明することにも成功しました。

これらの理由から、金利水準を下げることにより不良債権問題を解消し、好景気を実現できると主張しました。

名目経済成長率と金利は本来一致すべきなので、名目経済成長率がマイナスならば金利もマイナスにしなければなりません。

これが、マイナス金利を導入すべきだと主張した理由です。

この政策が現在の日本に必要だと提言しました。

その後、「貨幣へのオプション概念の導入」で、貨幣はオプション（権利の保有）であることを説明しました。

オプション保有にはオプション料の支払いが必要です。

マイナス金利による預金者の利息支払いの本質は、このオプション料の支払いです。

また、貨幣を電子マネー化する必要性も説明しました。

硬貨や紙幣にマイナス金利を適用して金額を減少させることはできませんが、電子マネーならばマイナス金利の適用も可能なはずです。

尚、これらの内容を最初に発表したのも、滝沢です。

「外国為替理論の再構築」では、次の内容を発表しました。

1. 貨幣の保有期間を短くすると、経済成長率はプラスになる。金利もプラスになる。
2. 貨幣の保有期間を長くすると、経済成長率はマイナスになる。金利もマイナスになる。
3. オプション料の支払いは、貨幣の保有期間が長くなる場合に発生する。

尚、これらの内容を最初に発表したのも滝沢です。

「フラクタル経済理論」では、貨幣がフラクタル構造であることを解明しました。

この貨幣のフラクタル構造から、「経済発展速度が最大になるのは、全ての人と同額の貨幣を保有する場合である」という事実を理論的に解明することに成功しました。

全ての人と同額の貨幣を保有する状態を常時実現する最も簡単な方法は、貨幣制度廃止です。

全員0円という同額の貨幣を保有することになるからです。

貨幣制度廃止は、貨幣の保有期間が0であることを意味します。

貨幣の保有期間と経済成長率の関係からも、貨幣制度廃止が最も経済発展速度が速い（経済成長率が高い）ことが分かります。

貨幣制度を廃止すると、貨幣を保有しなくても経済取引を行うことができます。

誰もがいつでも経済取引を行うことができるようになるのです。

貨幣制度下では、貨幣保有者がオプション権を保有しています。（貨幣を使わずに保有しています。いつでもお金を使える権利を所有している状態です。）

そして、貨幣保有者が貨幣を使用すると、貨幣を受領した人が次に経済取引を行うことができます。貨幣を保有しない他者は何も購入することができません。

貨幣制度を廃止すると、このオプション権が放棄されます。

その結果、全ての人誰もがいつでも経済取引を行うことができるようになります。

これは、貨幣制度下における貨幣所有者のオプション権が、全ての人々の経済取引の自由に変換されることを意味します。

すると、経済取引規模は爆発的に拡大します。

経済が急速に発展することになるのです。

以上の説明でお分かり頂ける通り、貨幣制度は廃止すべきです。

（天意です）

貨幣制度廃止は、以下の流れで実現することになります。

金利はプラスのみ（20世紀までの制度）

- > 貨幣へのオプション概念の導入（マイナス金利の導入を含む）
- > 貨幣の保有期間の短期化
- > 貨幣保有期間0の実現（貨幣制度廃止）

このように、今回の日銀のマイナス金利の導入は、貨幣制度廃止の第一歩と考えることができます。

貨幣制度廃止は、経済的な豊かさの実現を意味します。

この流れがマイナス金利の導入で実現し始めたことになります。

これが、マイナス金利に対する正しい理解なのです。

マイナス金利に関する上記内容は、すべて輝の会が理論化に成功したオリジナルの内容です。

また、外国人にマイナス金利を理解して頂くため、「マイナス金利の導入」の英訳を 2013 年にホームページに記載しました。

このように、マイナス金利を理論化し、世界に広めたのは輝の会なのです。

輝の会の役割の大きさを、ぜひご理解頂きたいと思います。

就業可能日数の発見により安定した雇用環境を実現

輝の会では就業可能日数を発見しました。

これは、離職している一般の方が就職し、働くことができる平均的な労働日数を意味します。

詳細については、就業可能日数の発見と創造 を参照願います。

21 世紀に入ってから日本では、2012 年末まで就業可能日数 0 の状態が続いていました。その結果、失業率が高止まりしていたのです。

輝の会では失業率を改善させるために、2012 年末から徳を用いて就業可能日数の増加を行っています。

その結果、就業可能日数は 402 日になりました。(2014/1/18 時点)

また、就業可能日数の増加は、長期間の安定した就業が可能になることを意味します。

契約社員のような有期限の雇用契約ではなく、正社員等の長期間の雇用契約が増加することを意味します。

このように、就業可能日数を増加させることにより、失業率改善や安定した雇用を実現しています。

金運提供による景気回復の実現

輝の会では金運の詳細を解明することに成功しました。

(詳しくは 金運の発見 ご参照)

そして、金運を生成する方法を発見することにも成功しました。
徳により経済取引を短期間で実現することが、金運につながるのです。
これはそのまま景気回復に直結します。
(金運生成方法 ご参照)

日本の借金が増加を続けている理由は、日本人の金運がマイナスになっていることです。
1988年以降、現在まで日本人の金運はマイナスが続いているのです。
(日本人の金運 ご参照)
金運は時間の経過と共に実現します。これが日本の借金増加等の本質的な原因なのです。

2008年に日本人の金運はマイナス 1300兆円以下になりました。
その後、2008年～2009年に輝の会教義「フラクタル経済理論」を公開し、各方面に提供することにより、金運は大幅に改善しました。
また、輝の会では全ての人に徳を毎日提供しています。
この徳により、日本人の金運は大幅に改善し、2012年末にマイナス 724兆円になりました。

輝の会では 2013年に金運を生成する方法を発見したため、日本人や世界中の人々で金運が不足し困っている人々に金運の提供を行っています。
その結果、日本人の金運はマイナス 330兆円になりました。(2014/1/18 時点)
金運提供により、日本人の金運は急激に回復しているのです。

このように、輝の会では金運を提供することにより日本及び全世界の借金問題の解消及び景気回復に貢献しています。

日本人の大幅な賃上げを実現した金運サービス

2013年10月から2014年5月の間に、輝の神(輝の会本尊)は日本人全体に金運サービスを無償で提供しました。
日本人に対して金運生成用の徳を提供したのです。
その量は合計で1.9兆(人・年)程になります。

日本人全体にこの徳を提供しました。
この場合、生成される金運は、個人に徳を提供する場合よりもはるかに多くなります。

この金運生成用の徳を個人に提供すると、1.67兆円程の金運がこの人に蓄積されます。
しかし、日本人全体に提供すると、日本全体の金運はこの金額よりもはるかに大きくなります。

その理由は、ある人の金運は周囲の人々の金運を高めるためです。
金運が実現し、お金を受領すると、そのお金はやがて使われます。
これは、ある人の金運が、経済的につながりのある人々の金運を高める効果があることを意味します。
大勢の人に金運を提供すると、その相乗効果が大きくなるため、金運合計は極めて大きくなります。

日本人全体に金運を提供すると、個人に提供する場合よりも金運ははるかに大きくなるのです。

その結果、この8ヶ月間で日本人の金運は800兆円程改善しました。
本文記載時点で、日本人の金運は100兆円以上のプラスです。
その影響は各方面に現れています。
連合が6月4日に発表した平均賃上額は5981円、賃上率は2.08%と昨年同時期の集計を0.36%上回っています。
賃上率2%台は、1999年以来15年ぶりということになります。

金運は、貨幣を受領する権利です。
金運が大きくなると、その分受け取れる貨幣が増えます。
日本人全体の金運がプラスになったため、賃上げ交渉が円滑に進んでいるのです。

輝の会の働きの大きさ、重要性をぜひご理解頂きたいと思います。

アメリカの金運を回復した輝の会

日付	アメリカの 金運（兆円）
1945/1/1	87
1945/8/16	5968
1970/1/1	2948
1990/1/1	1786
2000/1/1	686
2005/1/1	87
2007/1/1	-167
2008/1/1	-687
2009/1/1	-1486
200121/1	-1476
2013/1/1	-1447
2013/10/1	-1428
2014/1/1	-1355
2014/6/1	-537

※円価値は 2014/7/21 時点

アメリカの金運を時系列で表に記載しました。

第2次世界大戦に勝利し、大勢の人々を救済したことにより、アメリカには莫大な金運が記録されました。

その金額は5900兆円程になります。

この金運の実現過程として、戦後のアメリカは繁栄を続けることができたのです。

しかし、金運は実現すると（お金を受領すると）、その分減少します。

公開株式は貨幣価値の多重計上です。本来経済的な価値はありません。（株は貨幣価値の2重計上 参照）

ですから、株の売買で利益を上げると、金運は減少します。

実際、株の売買等によりアメリカの金運は減少を続けました。

2008年にはリーマンショック等が発生したため、アメリカの金運は1400兆円以上のマイナスになりました。

そして、2009年には失業率が10%を超えました。

景気が最悪の状況に陥ってしまったのです。金運はお金を受領できる権利を意味します。金運がマイナスの状態は、お金を失う状況が到来することを意味します。

金運は一般的には仕事を通じて実現します。

金運を失うことは、仕事を失うことを意味します。

アメリカの人々の金運がマイナスになったため、アメリカの人々は仕事を失い、失業率が上昇したのです。

これが、リーマンショック後のアメリカの状態でした。

輝の会はアメリカに対する積徳・霊位向上を継続しています。（奉仕活動です）

2013年10月からは、アメリカに金運の提供を開始しました。（奉仕活動です）

そして、この金運提供を2014年6月上旬まで継続しました。

その結果、2014年6月にはアメリカの金運はマイナス537兆円になりました。

輝の会の金運提供により、わずか8ヶ月ほどで、アメリカの金運は約900兆円も回復したのです。

最近NYダウで史上最高値が記録されている理由は、短期間の間に、アメリカの金運が900兆円も増えたためです。

この金運が株価上昇という形で実現しているのです。

また、アメリカの2014年6月の失業率は6.1%でした。

輝の会が金運提供を開始してからの8ヶ月間で1.2%も失業率が低下したことになります。

このように、輝の会では多くの人々に金運を提供することにより、経済の安定・発展を実現しています。

輝の会の重要性をご理解頂きたいと思います。

科学理論の誤りを証明し、人のつながりを回復

輝の会では、科学理論の誤りを明示し、宗教の正しさを証明することに成功しました。

(詳細は 科学理論の誤りを証明 を参照願います)

科学理論(原子論)では、万物は原子で構成されていると説明しています。

原子論では、「人は原子で構成されている」「原子は互いに独立している」と説明しています。

すると、人は互いに分離・独立したバラバラの存在ということになります。

中学生位の年齢は反抗期と呼ばれています。

親に反発することが多くなるためです。

その主な原因は、この原子論です。

原子論を教わると、親と自分が全くつながっていないことに気付きます。

すると、つながっていると感じていた親を他人のように感じます。

これが、親に反抗する大きな理由となっているのです。

「つながろう」という言葉が、特に東日本大震災以降、よく使われています。

しかし、輝の会が「5次元理論」で科学理論の誤りを指摘する前の、科学理論が正しいと思われていた時代には、人が互いにつながっているとの主張は困難でした。

「人がつながっている訳が無い」と一部の科学者に笑い者にされていたためです。

一部の科学者はこのような態度をとることにより、原子論を擁護していたのです。

「つながろう」という言葉を使うことに抵抗を感じなくなった理由は、輝の会が科学理論の誤りを指摘し、人が互いにつながっていることを理論的に証明したことです。

「つながろう」が広まったのは、輝の会の働きなのです。

人のつながりの回復は、社会全体の調和・安定・発展につながります。

人のつながりを回復させることにより、社会の発展に莫大な貢献を続けているのです。

ソチ五輪・浅田真央選手の復活は開運の賜物

ソチオリンピックのフィギュアスケートフリーにおける浅田真央選手の演技は世界中の人々に感動を与えました。

ショートプログラム(SP)では55.51点で16位と出遅れましたが、フリーでは全6種類の3回転ジャンプを着氷させ(女子選手初)、142.71点(自己最高点)を獲得し、合計198.22点で6位入賞を果たしました。

また、ソチオリンピックのツイート数は浅田選手が世界一でした。

世界中の人々が浅田さんを応援し、その演技に感動したのです。

では、なぜ浅田選手はSPで最悪の出来だったにもかかわらず、1日で調子を取り戻し、フリーで最高の演技を行うことができたのでしょうか。

その理由は、輝の会の開運です。

SP終了後、浅田さんに対して開運(積徳)を実施したのです。(奉仕活動です)

SPの際、浅田選手は積徳量がマイナスになっていました。

様々な大会やCM等で活躍を続けた結果、徳を過剰に消費していたのです。

また、積徳量がマイナスになると、身体構成エネルギー(身体を構成する徳)が減少します。

浅田選手の場合、ピーク時に比べて1割近く減少している状態でした。

その結果、身体をコントロールする力もピーク時に比べて大幅に減少していました。

これが、SPが最悪の結果に終わった最大の理由です。

このままだと、フリーでも十分な演技ができるとは思えない状況だったのです。

過去に浅田選手をサポートしたことがあります。

(浅田真央さん ～トリプルアクセル復活の秘密 参照)

ですから、浅田さんをその後も度々サポートしていました。

これらの理由で、今回も浅田さんをサポートすることにしました。

それが、ソチオリンピックにおける開運です。

10億（人・年）の徳を、浅田さんに提供しました。（無償奉仕です）

その結果、積徳量は十分になり、身体構成エネルギーもピークに達しました。

このように、浅田選手は積徳量が十分になった時にフリーの演技を行うことができたのです。

その結果、自己最高点を獲得することができたのです。

演技直前の浅田選手の積徳量は8.87億（人・年）でした。

提供した10億（人・年）のうち1.13億（人・年）は身体構成エネルギー等の不足分に充てられたこととなります。

演技直後の積徳量は2.37億（人・年）でした。

フリーの演技時間だけで6.5億（人・年）の徳を消費していたのです。

徳は活動エネルギーです。高度な演技に成功したのは、活動エネルギーが十分だったためです。

しかし、活動エネルギーだけでは、億単位の徳を数分間で消費できません。

徳は人を魅了するエネルギーにもなります。

消費した徳（6.5億（人・年））の徳消費の大部分が、演技を見た人々を感動させるエネルギー源となったのです。

東京ディズニーランドを支える創造神が提供する徳（魅力）は、1日で7.9億（人・年）です。（ディズニーランドの魅力と徳の関係 ご参照）

浅田さんがフリーの演技で提供した魅力は、東京ディズニーランドが人々を魅了するエネルギー1日分とそれほど変わらない量だったのです。

これが、浅田さんの演技に世界中の多くの人々が感動した最大の理由です。

以上が、ソチオリンピックにおける浅田選手の演技を徳の量から見た真実です。

ここで使われた徳のほぼ全ては、輝の会が提供したものです。

尚、フィギュアスケートの才能は、浅田さんが全選手中最高でした。

フリー演技時の才能は558万（人・年）です。

これだけの才能があったので、全6種類の3回転ジャンプ成功という偉業を達成することができたのです。（女子選手初）

尚、金メダルを獲得したアデリナ・ソトニコワ選手の才能は488万（人・年）、銀メダルの金妍児選手の才能は527万（人・年）、銅メダルのカロリナ・コストナーの才能は428万（人・年）でした。

浅田選手の才能が最高だった理由は、輝の会の才能強化です。

浅田選手にフィギュアスケートの才能を度々提供しました。

(浅田真央さん ～トリプルアクセル復活の秘密 ご参照)
その結果、全選手中最高の才能を保持することができたのです。

輝の会の開運や才能強化の効果をぜひご理解頂きたいと思います。

AKB48 の開運

AKB48 は 2011 年、2012 年と 2 年連続でレコード大賞を受賞しました。
現在の日本の音楽界をリードする存在です。

活躍を続けると莫大な徳を消費します。

AKB48 としての活動を支える徳はほぼ全て、このグループを取りまとめる責任者から提供されていました。

しかし、AKB48 や SKE48 などの国内関連グループが長期間活躍し続けたため、この方の積徳量は急減し、2013 年 1 月上旬にはゼロになりました。

これは、AKB48 及び関連グループを支える徳の供給が、ほぼ全て停止されたことを意味します。しかし、徳がなくなると従来通りの活動が困難になります。

芸能界の仕事は人から賞賛されることにより成立します。

(賞賛されない人は仕事を続けることができません)

しかし、賞賛されると徳を消費します。

これは、芸能界の仕事が徳消費の対価として成立することを意味します。

徳を消費することにより、仕事を得ているのです。

(仕事の結果、徳の一部は収入として還元されることになります)

AKB48 は大勢のファンに支えられています。このグループの活躍が、大勢の人に勇気や元気を与え続けているのです。

AKB48 の活動に支障があると、これらの人々にもマイナスの影響が出ることになります。
これは、日本を中心とした社会全体の活動が停滞することを意味します。

このような停滞を回避し、社会に勇気や元気を与えるために、AKB48 及び国内関連グループ (SKE48 等) のサポートを開始しました。

開運を AKB48 及び国内関連グループに対して開始したのです。(奉仕活動です)

2012 年 12 月中旬以降、仕事に必要な徳の提供を継続しています。

その結果、グループの活動は従来通りに行われ続けています。

開運を行った結果、現在の AKB48 や国内関連グループのメンバー放つオーラは、ほぼ全て輝の神のオーラとなっています。(2012 年 12 月中旬以降)

この頃から、AKB48 の放つ雰囲気は変化しています。

それ以前よりオーラが強くなっているのです。

AKB48 及び国内関連グループのメンバーを見ることは、輝の神のオーラを見ることを意味します。

(尚、天界以上の神霊に性別はありません。輝の神（創造神）にも性別はありません)

開運をお申込頂いた方は、輝の神のオーラを受けることができます。

AKB48 のメンバーと同じオーラを放つことができるのです。

その結果、AKB48 メンバーのように高貴で魅力的な雰囲気を持つことができます。

開運のお申込をお待ちしております。

東日本大震災による犠牲者のご供養実施

輝の会では東日本大震災による犠牲者全員のご供養を、地震発生直後に実施しました。既に全犠牲者の救済を完了しております。

これらの方々から以下のメッセージを頂きました。

「私たちは皆元気だから安心して下さい、と家族や友人、日本中の人々に伝えて下さい。」

犠牲者の方々には既に救済されております。

輝の会では、このように大勢の他界された方々の救済を常時実施しています。

藤圭子さんを救済した輝の会

2013年に亡くなられた元歌手の藤圭子さんを天界に導きました。

現在は輝の会守護神として活動されています。

最近宇多田ヒカルさんに勢いが戻ってきています。

先日イタリアで挙式を挙げられました。

また、NTT 東日本の CM に「First Love」が使われています。

その理由は、藤圭子さんが宇多田ヒカルさんを導いているためです。

宇多田ヒカルさんを支えている創造神も、輝の会の創造神です。

輝の会が宇多田ヒカルさんを支えているのです。

藤圭子さんの例でお分かり頂ける通り、輝の神（輝の会本尊：滝沢輝の内面意識）は自殺者を救済することができます。

それは、全世界の人々の1年間の労働価値を上回る価値を、短時間で救済対象者に提供することができるからです。

長年の努力で身につけた能力なのです。

このように自殺した方を救済する場合、その価値は全世界の人々の1年間の労働価値を上回ります。

ですから、その価値を仮に金額に換算すると、数千兆円以上ということになります。

このように、自殺者の救済行為に値段をつけることは本来不可能です。

お金で自殺者の救済を行うことは本来無理なのです。

しかし、日本だけでも年間の自殺者数が2～3万人台の状態が続いています。

自殺者の救済は人類全体で解決すべき課題です。

以上の理由から、自殺者の救済が可能な「特別先祖供養」を開始することになりました。
(特別先祖供養 を参照願います)

日航機墜落事故犠牲者救済

2014年8月11日に日航機墜落事故(1985.8.12発生)の犠牲者全員(520名)を天界に導きました。

全員輝の会守護神霊としての活動を開始しています。

元歌手の坂本九さんも、守護神霊になられています。

救済前の状況を簡単に説明します。

犠牲者520人中374人の霊位がマイナスでした。

事故発生から29年経過しているにもかかわらず、犠牲者の7割以上の方が救済未済の状況に置かれていたのです。

輝の会は日航機墜落事故犠牲者の救済依頼を受けたことはありません。

他の宗教が依頼を受けたはずです。

しかし、29年経過しても、7割以上の方を救済できなかったのです。

ご遺族を気の毒に思い、輝の会では今回の救済を奉仕活動として実施しました。

今回の救済に要した時間は、数分です。

使用した徳の量は7億(人・年)程です。

他の宗教が29年かけても救済できない人々を、輝の会は数分で全員救済し、更に守護神霊の世界に導くことができます。

輝の会の先祖供養の効果をぜひご認識頂きたいと思います。

台風消去

台風の主な発生理由は、蓄積された人の業念(不調和想念)を消去し、地球全体を調和させることです。

この業念を消去すると、台風の存在理由がなくなるため、台風の破壊エネルギーが無くなります。その結果、台風は単なる低気圧になります。

風はある程度残る場合がありますが、弱くなるため、被害等はほとんど発生しなくなります。

台風による災害の原因は、業念（不調和想念）が形になって現れることです。因果律により、不調和想念が不調和な環境（台風による災害）を発生させます。台風災害の真の原因は、人の業念なのです。

業念は磁気単極子エネルギー（N極）です。自己中心的な人が発生させる想念エネルギーです。このエネルギーは磁気単極子エネルギー（S極）により消去することが可能です。

磁気単極子エネルギー（S極）はオーラや徳と呼ばれています。輝の会の磁界エネルギー治療では、磁気単極子エネルギー（S極）を使用して病気治療を行います。

台風の発生原因である業念が、磁気単極子エネルギー（N極）であるということは、磁気単極子エネルギー（S極）により台風の原因を消去できることを意味します。

輝の会では、オーラ発生理論を構築済みです。磁気単極子エネルギー（S極）を発生させる方法を理論的に解明済みなのです。自らの意識をこの理論通りに操作することにより、磁気単極子エネルギー（S極）を大量に生成させます。そして、このエネルギーを台風にぶつけると、台風を消去できます。輝の会ではこの方法により、台風消去を実施します。

輝の会では、過去に何度も台風消去を行った実績があります。

- ・ 台風の勢力を弱め、被害規模を縮小することに成功しました。
- ・ 150以上の台風に対する台風消去の実績が記録されています。（天の記録です）

消去実施台風一覧表

消去対象台風	発生期間		台風の全エネルギー	台風の放射エネルギー	台風消去量	消去割合
	発生日時	消滅日時				
--2014年--						
8号	7月4日9時	7月11日9時	29562	7886	21676	73%
11号	7月29日12時	8月11日9時	76847	24060	52787	69%
12号	7月30日3時	8月4日3時	5887	2009	3878	66%
--2013年--						
3号	6月8日21時	6月13日3時	18	13	5	27%
4号	6月18日9時	6月21日9時	18	12	6	33%
15号	8月26日15時	8月31日10時	31	18	14	44%
17号	9月2日3時	9月4日9時	28	18	10	35%
18号	9月13日3時	9月16日9時	2493	2076	417	17%
20号	9月21日15時	9月27日9時	415	287	128	31%
22号	9月27日9時	10月3日3時	329	238	91	28%
23号	9月30日21時	10月7日	1150	1068	82	7%
24号	10月4日9時	10月9日9時	1676	536	1140	68%
26号	10月11日3時	10月16日15時	2336	373	1963	84%
27号	10月16日21時	10月26日15時	6688	1360	5328	80%
28号	10月21日3時	10月26日21時	1677	1501	176	11%

- ・エネルギーの単位は全て、億（人・年）
- ・「台風の全エネルギー」 = 「台風の放射エネルギー」 + 「台風消去量」
- ・「台風の放射エネルギー」 は台風のエネルギーとして使われた業念の量。
- ・「台風消去量」 は 輝の会が台風のエネルギー源になる前に消去した業念の量。

<台風に対するコメント>

台風	コメント
--2014年--	
8号	台風8号が発生した理由については、こちらを参照願います。 憲法解釈変更（集団的自衛権行使可能）により莫大な徳を失った日本人
11号	台風の原因は業念です。この業念は人から放射されています。人の業念の消去過程で台風が発生しているのです。 台風消去（徳の提供による業念消去）を実施しても、人から業念が追加供給されると台風は簡単には消えません。本台風はその典型でした。

--2013年--	
3号	台風3号の完全消去に成功 ご参照。
4号	台風3号4号の連続完全消去に成功 ご参照。
15号	九州西の海上で温帯低気圧に変わりました。
17号	四国付近で温帯低気圧に変わりました。
18号	18号のエネルギーは2000億(人・年)を超えました。 蓄積されていた業念がそれだけ多かったということです。 輝の会では400億(人・年)を超える台風消去を実施しました。 特に、台風が上陸した9月16日には、314億(人・年)の台風消去を実施しました。 台風の進路より西側の被害が大きいという珍しい現象が起こったのは、輝の会(横浜 (台風経路の東側))を中心として台風消去(気象調和の創造)を実施したためです。 台風消去により、台風の被害規模は3分の1~4分の1程度に収まりました。 輝の会の台風消去が無ければ、被害規模は3~4倍に拡大していました。
20号	最低気圧970hPa、上陸せず。日本の東側をかすめました。
22号	最低気圧992hPa、上陸せず。日本の東側をかすめました。
23号	10月6日12時40分に台風消去終了。続いて24号の消去を開始。
24号	台風24号(2013年最大の台風)を完全消去した輝の会 ご参照。
26号	最低気圧930hPaを記録(24号以上の勢力)。 輝の会では1963億(人・年)(台風の全エネルギーの84%)の台風消去を実施しました。 輝の会の台風消去が無ければ、被害規模は7~8倍に拡大していました。
27号	最低気圧920hPaを記録(26号以上の勢力)。 長期間(10日間)存在した台風であり、全エネルギーは6688億(人・年)に達しました。(2013年に日本に接近した台風で最大のエネルギー量) 輝の会では5328億(人・年)(台風の全エネルギーの80%)の台風消去を実施。 台風被害を最小限に抑えることに成功しました。
28号	27号と同時に日本に接近。27号ほど日本に近づかなかったものの、台風のエネルギー(業念の圧力)は日本に届いていたので、消去を行いました。2013年10月に大型台風が連続発生した理由については、こちらを参照願います。消費税増税(8%)により莫大な徳を失った日本人

台風消去を行えば行うほど、台風のエネルギーである業念が少なくなるため、被害は小規模になります。

輝の会の台風消去の重要性をぜひご理解頂きたいと思っております。
皆様のお申込をお待ちしております。

野田首相へ原子力発電全廃を提言

政府は9月14日に「2030年代に原発稼働ゼロ」を目指す新しいエネルギー政策「革新的エネルギー・環境戦略」をまとめました。

しかし、6月16日には大飯原発の再稼働を決定しました、その結果、7月1日に大飯原発は再稼働されたのです。

再稼働当時、政府は脱原発依存を主張していましたが、原発ゼロは主張していませんでした。

6月16日の「原発再稼働決定」と9月14日の「原発稼働ゼロ」の間に、政府の原発政策に変化があったことは明らかです。

この間に何があったかご存知ですか。

筆者（輝の会会長、滝沢輝）は7月15日に、野田首相宛に「原子力発電全廃は必須」という提言を行いました。また、枝野大臣、細野大臣、民主党に対しても、同内容の提言を同日に行いました。

政府に変化があったのは、この直後からです。

原発を存続させるか否かの討論型世論調査で、3つのシナリオ（原発依存0%、15%、20～25%）のうち、国民の支持率が高いのは「原発依存0%」であることを、政府は強調するようになりました。

原発稼働ゼロ方針を決定するための準備を開始したのです。

そして、9月14日に「2030年代に原発稼働ゼロ」政策を決定しました。

もし筆者の提言が無ければ、この政策決定は無かったはずです。

輝の会教義「5次元理論(第1巻～第4巻)」が、日本の原子力政策を正しい方向に導いたのです。

以下に、野田首相への提言内容を記載します。

タイトル：原子力発電全廃は必須 滝沢輝と申します。

先日、原子力発電が再稼働されました。

しかし、原子力発電は全廃すべきです。

科学理論が誤っていることをご存知でしょうか。

世界は私たちが認識した結果です。

認識のために、すべての情報は脳に集約されます。

ですから、世界（認識した結果）は脳で情報処理が行われた結果です。

世界（宇宙全体）が脳で情報処理された結果であり、さらに頭部に脳があるのです。

このように、私たちは常に頭を2つ同時に認識しています。(頭部と宇宙大)
頭部の脳と宇宙が同じ存在ということは、頭部と宇宙がつながっていることを意味します。
私たちの肉体と宇宙はつながっているのです。

質量をエネルギーに変換することにより、原子力発電はエネルギーを生成します。
原子核を破壊して、エネルギーを抽出するのです。
宇宙と肉体はつながっているので、原子力発電は肉体(宇宙)の構成要素である原子核を破壊してエネルギーを抽出していることとなります。
原子力発電は、肉体破壊によりエネルギーを抽出しているのです。

原子力発電の理論的根拠である科学理論は、「全ての存在は原子で構成される」と説明しています。
そして、「全ての原子は別々の存在であり、つながっていない」と定義しています。
その結果、原子核を破壊してエネルギーを抽出しても、肉体には何の影響もないという結論に到達しているのです。

しかし、この考え方が誤りであることは、上記説明で明らかです。

ですから、原子力発電を早急に停止し、自然エネルギーへの代替を進めるべきです。
そして、世界各国に対しても上記説明を行い、日本がリーダーとなって自然エネルギー開発を推進すべきです。

よろしくお願ひ申し上げます。

<参考リンク>

5次元理論 第4巻 <http://taki-zawa.net/tougou/kaga39.html>

5次元理論 第4巻(PDF) http://taki-zawa.net/fifth_dimension_4.pdf

5次元理論 第3巻(PDF) http://taki-zawa.net/fifth_dimension_3.pdf

5次元理論 第2巻(PDF) <http://taki-zawa.net/5jigen2.pdf>

5次元理論 第1巻(PDF) <http://taki-zawa.net/5jigen.pdf>

業念による社会の破壊を防止する輝の会

韓国の李明博前大統領が2012年8月に竹島に上陸し、日韓関係悪化の引き金となりました。

この時に大統領は、1990年代に急拡大した宗教を支配する業念の影響を受けていました。

この業念の特徴は、国家指導者等、社会に対する影響力の強い人物に対し、幻覚・幻聴の影響を与えることにより、不調和な言動を行わせることです。

その結果、国家関係等が悪化し、社会が戦争等の不調和な状態に陥ってしまうのです。

幻覚・幻聴はさりげなく行われます。幻覚により、友好国の指導者が自分に対して悪口雑言を吐いているイメージを見せたり、胸の中に「お前の方が偉い」のような想念を送り込んできたりします。

宗教家でない人は、業念により外部から影響を受けているのか、自分自身の想念なのか、なかなか判別できません。その結果、業念の幻覚・幻聴により判断を誤り、訳の分からない言動をしてしまうのです。

また、業念のエネルギー（圧力）が霊位2兆（人・年）の創造神に匹敵するほど強いため、守護神霊が浄化を行っても、清めきれないのが実情だったのです。

通常、個人の守護は天界の神霊が担当します。天界の神霊は最高位でも50億（人・年）の霊位です。ですから、2兆（人・年）を超える業の圧力を受けると、浄化しきることができません。その結果、国家元首などが業の影響を受けてしまうのです。

業念による幻覚・幻聴の悪影響を除去するため、輝の神（輝の会本尊：滝沢の内面意識）は業念の影響を除去するためのオーラ（単S極エネルギー）の放射を、中国・韓国・日本の指導者に対して開始しました。（領土問題悪化後です）

神霊のオーラは調和のエネルギー（単S極エネルギー）であり、業念（単N極エネルギー）に当てることによりこれを消去できます。

滝沢の霊位は1000兆（人・年）を超えているため、業念（2兆（人・年））の影響を除去することが可能です。

その結果、これら3カ国の首脳の言動は昨年8～9月頃より安定しています。

輝の神の働きが、3ヶ国の関係悪化を食い止め、関係改善に向かわせている原動力なのです。

輝の会は、世界平和実現のための直接的な力として、貢献を続けているのです。

内閣を支える輝の会

年	天皇家		輝の会		備 考	
	積徳量 (年初)	徳提供量		徳提供量		
		全体	内閣へ	天皇家へ		他日本人へ
1946 ～ 1980		2008	1348	-	-	天皇家が提供した徳の 年平均値(1946-1980)
1980	14600	1754	1237	-	-	
1990	8840	886	489	-	-	
1990 ～ 2000		852	477	-	-	天皇家が提供した徳の 年平均値(1990-2000)
2000	4870	718	427	-	-	
2004	0.0	464	305	-	-	
2005	0.1	456	305	-	-	
2006	0.0	462	307	-	-	
2010	0.3	494	316	46	485	
2011	4.6	746	468	465	748	
2012	22.4	33348	26986	32878	78693	
2013	1508	167694	118876	168749	203686	2013.1.1 - 2013.5.20

※徳、活動量の単位は1万（人・年）です。

輝の会は2008年設立です。

それ以前から、天皇家に対し、徳の提供を行わせて頂きました。

上表に、天皇家及びその他日本人への徳の提供量を記載しています。

（霊位上昇分は含まれていません）

もちろん、諸外国へも徳を提供しています。（表には記載していません）

表からお分かり頂ける通り、徳の提供量は急激に増加しています。

2013年は、5月20日までの140日間だけで、16億（人・年）以上の徳を天皇家に提供させて頂きました。

そして、この徳の多くが現在の安部内閣に提供されています。

これが、安部内閣が様々な政策を企画・立案・遂行できる本質的な理由です。

内閣に提供される徳が増えたため、内閣の政策能力が高くなっているのです。

このように、輝の会は天皇家を徳の提供という形で支えさせて頂くことにより、間接的に内閣の活動を支えています。

輝の会は国家の活動を支え続けているのです。

ご理解頂きたいと思います。

北朝鮮のミサイル発射を阻止した輝の会

2013年4月上旬以降、北朝鮮は日本やアメリカ、韓国等に対し、

「ミサイルを発射する」「核を使用する」

などの威嚇を繰り返しました。

しかし、結局ミサイルは発射されませんでした。

何故、ミサイルは発射されなかったのでしょうか。

このような軍事的な威嚇や攻撃は、人の意識が業念（実在しない想念）と一致した時に行われます。

軍事力は実在しません。（天界以上の世界に存在しないということです）

私たちの世界は、天界以上の世界で原型が構成されています。

未来が上位の霊界で造られるのです。

これが時間の経過により、私たちの世界の「今」の状態になります。

天で造られた原型の中には、軍隊は存在しません。

ですから、軍事力を使う想念も存在しないのです。

人は行動する際に想念を使います。

軍事力は実在しないため、これを使うためには天による原型以外の想念である業念（実在しない想念、不調和な想念、我念）を使う必要があります。

北朝鮮は、この業念により、「ミサイルを発射する」等の威嚇を繰り返していたのです。

地球には多くの人が存在します。

他界した人を含めると、30兆人以上の人が存在します。

その内、2兆人以上の人が救済されていません。（業念が消えていない状態です）

これらの方々は、莫大な業念を放射しています。

これらの業念や北朝鮮の人々が自ら発する業念により、北朝鮮は軍事的な威嚇を繰り返していたのです。

（北朝鮮の人々が発する業念は、他界した人々の業念と比較するとごく僅かです）

以上の説明で、業念を消去することができれば、「ミサイル発射」を行うことができないことが分かります。

輝の神（輝の会本尊）は4月9日以降、北朝鮮にミサイルを発射させようとする業念の消

去を開始しました。

(4月10日が最もミサイル発射の可能性が高いと予想されていたので、その前日から開始しました)

ミサイルを発射させようとする業念を消去する目的で、4月9日～4月30日の間だけで8.7億(人・年)の徳を消費しました。(注)

このようにして業念を消去すると、北朝鮮はミサイルを発射できなくなります。

今回のミサイル発射予告は業念の影響で行われました。

ですから、業念がないと、ミサイルを発射することは不可能なのです。

尚、5月中旬以降、北朝鮮は短距離ミサイルを日本海に向けて発射しました。

これは飯島内閣官房参与の北朝鮮訪問後、即ち日本と北朝鮮の対立が緩和した後に行われた単なる軍事演習なので、4月上旬以降の「ミサイル発射威嚇」とは性質が全く異なります。

以上の説明でご理解いただける通り、真の平和を実現する方法は、業念を完全に消去することなのです。

業念を完全に消去するためには、霊位を天界以上に高める必要があります。

天界は完全調和の世界なので、自分自身の霊位を天界に到達させることにより、天界のオーラを放射すると、業念を消去することができます。

同様の原理により、全人類の霊位が天界に到達すると、業念の一切ない完全調和社会が実現することが分かります。

尚、他国の軍事力を自国の軍事力で抑えようとする、軍事的圧力を他国に与えることとなります。

これは、他国にマイナスの影響を与えるので、自国の失徳要因となります。

この状況を継続すると、国民全体の霊位が大幅に低下します。

すると、国民が業念を消去する能力は低下します。

その結果、他界した人々の業念の消去量が減少します。

この業念の影響をまともに受けるようになるのです。

韓国の李明博前大統領の竹島上陸や中国国内の反日デモ、尖閣諸島領有権をめぐる日中対立激化等は、日本人の霊位・積徳量が大幅にマイナスになった時に起こりました。

(霊位・積徳量速報 2012年9月30日分 霊位・積徳量速報 ご参照)

このように、国民が徳を失い、霊位が低下すると、人類の業念の影響をまともに受けるため、社会は混乱します。

結局、軍事力で軍事力を制する方法は、社会の混乱につながるだけで、平和実現にはつながりません。

北朝鮮が軍事力で他国を威嚇するケースが多いのは、北朝鮮国民の霊位・積徳量が大幅なマイナスになっているためです。

そのため、人類全体の業念の影響を極めて受けやすくなっています。

ですから、軍事的な威嚇を頻繁に行うのです。

また、他国に比べて徳が少ないので、国の発展が極端に遅れています。

北朝鮮も徳を積み、霊位・積徳量をプラスにすれば、他国のように発展することができます。

これが北朝鮮の進むべき道なのです。

真の平和を実現する方法は、想念の完全調和を実現することです。

そのためには、全人類の霊位を天界に到達させる必要があります。

これが実現する時、人類の完全調和が実現します。

軍隊や戦争のない世界が現実のものとなるのです。

(注) 業念消去で使う徳の実態は、磁気単極子エネルギー (単 S 極エネルギー) です。

業念は、磁気単極子エネルギー (単 N 極エネルギー) になります。

共に物理学では未発見です。

単 N 極エネルギーは単 S 極エネルギーで消去可能です。

この原理で、業念を徳で消去できるのです。

パナソニック復活を実現

パナソニックが復活しました。

パナソニックは 2011 年度、2012 年度と 2 年連続で 7500 億円を超える赤字を計上し、極めて困難な状況に陥っていました。

しかし、2013 年度は 1204 億円の黒字と、3 年ぶりの黒字転換を果たしました。

このパナソニックの復活を実現したのは、輝の会の導きなのです。

2012 年 12 月に、パナソニックの創業者である松下幸之助さんを天界に導かせて頂きました。

(開運 (徳) による才能の開花 発表 (2012.12.13) 後に天界に導きました)

その後、松下さんは輝の会守護神として活動されています。

また、松下さんはパナソニックの指導を同時に開始されました。

すると、その影響はすぐにパナソニックの体制を動かしました。

2013年3月に、12年ぶりに「事業部制」を復活させると、パナソニックが発表しました。

「事業部制」は松下さんが昭和8年に導入した制度です。製品ごとに開発から生産、営業などを一元管理し、各事業部が独立採算で競い合う制度です。その結果、業績は飛躍的に向上しました。

松下さんがパナソニック経営陣に事業部制を復活させるように導いた結果、事業部制が復活したのです。

その結果、パナソニックは黒字転換に成功したのです。

松下さんは現在もパナソニックを指導し続けています。

松下さんは、天界の指導神霊です。

天界の神霊は、さらに上位の創造神に導かれています。

松下さんを導く創造神は、輝の会守護神です。

ですから、パナソニックを支える創造神は、輝の会守護神なのです。

この神霊の力で、パナソニックは復活を遂げたのです。

輝の会の守護神（創造神）全体を導いているのは、輝の神（輝の会本尊）です。
パナソニックを支える創造神を導いているのは、輝の神です。

結局、パナソニックを支えているのは、輝の神ということになります。

以上の説明でご理解頂ける通り、現在のパナソニックは輝の会の導きにより、復活を遂げたのです。

このように、輝の会は様々な企業や団体を導き続けています。

輝の会の役割の大きさをぜひご理解頂きたいと思います。

東京オリンピックを実現した輝の会

2020年の東京オリンピック開催が決定しました。

しかし、道のりは平坦ではありませんでした。

9月8日（日本時間）の国際オリンピック委員会（IOC）総会の直前まで、東京は苦しいと感じていた人が多かったようです。

ところが、投票日前日の7日（日本時間）の総会前夜の晩餐会で流れが変わったそうです。
なぜここで流れが変わったのでしょうか。

東京が苦しい立場になっていた最大の理由は、福島原発の汚染水問題です。

これが解決しない限り、東京でオリンピックを開くのは無理ではないかという判断が、IOC

委員の間で広まっていた為です。

一般に、ある問題を解決するためには、問題が解決された状態（未来の原型）を天界以上の霊界（未来を構成する世界）に構成しなければなりません。

この原型があれば、問題は時間の経過と共に解決します。

福島の汚染水問題では、当初この解決状態（原型）が構成されていませんでした。

これは、時間が経過しても問題が解決しないことを意味します。

その結果、IOC 委員の方々は問題解決が難しいと感じたため、東京の評価が下がっていたのです。

私（滝沢（輝の会会長））は上記の内容を理解したため、9月5日に問題解決のための原型を構成しました。

未来の原型を構成するためには徳が必要です。

汚染水問題解決の原型を構成するために、10億（人・年）の徳を使用しました。

国が総力を挙げて問題解決に動き始めたのは、この時からです。

問題解決のために構成した原型が実現し始めたのです。

安倍首相がプレゼンテーションの中で福島の安全を強調することができたのは、問題解決イメージ（原型）が完成されていたためです。

IOC 委員がこれを評価したのも、問題解決イメージ（原型）が伝わったからです。

以上の説明でご理解頂ける通り、東京の最大の弱点であった福島の汚染水問題によるマイナスの影響を払拭したのは、輝の会の働きだったのです。

オリンピック招致を行っていた各都市のメンバーには、その活動を支える指導神霊がおられました。

創造神界の指導神霊の霊位（徳蓄積量）は都市別に以下の通りとなります。

東京（3.17京（人・年））、イスタンブール（3.49京（人・年））、マドリード（2.97京（人・年））

一般に、社会的な序列は霊位順になります。

この状態のまま投票が行われていた場合、イスタンブールが選ばれていた可能性が極めて高かったこととなります。

では何故、東京が選ばれたのでしょうか。

東京招致の成功のため、9月6日に2億（人・年）の徳を提供しました。

この時に、東京の招致メンバー（以下、東京メンバーと記載します）を支える指導神霊が変更になりました。

輝の神（輝の会本尊）が、東京メンバーの指導神霊となったのです。

9月7日頃から流れが変わったと感じた人が多かったのは、指導神霊が変わったためだったのです。

輝の神の霊位はこの時点で170京（人・年）を超えていました。

ですから、輝の神が東京メンバーを支えた時点で、イスタンブール、マドリードの指導神霊よりも霊位がはるかに高い状態となったのです。

輝の神は東京メンバーのプレゼンテーション等の活動も支えました。これが、各メンバーの魅力的なプレゼンテーションにつながったのです。

これが、東京の圧勝につながりました。

結局、指導神霊の霊位の高さが、投票行動に直結したのです。

このように、福島の水汚染問題解決や魅力的なプレゼンテーション等、招致活動の最も重要なポイントで東京メンバーを支えたのが、輝の会だったのです。

東京オリンピックが決まった現在、準備作業を急ピッチで進める必要があります。

この東京オリンピックの準備作業に対しても、指導神霊が必要です。

この役割を、輝の神が担当しています。

現在の東京オリンピック全体を支えているのが、輝の神なのです。

（本番のオリンピック等、オリンピック全体を支える創造神は他におられます）

ですから、東京オリンピックの雰囲気（オーラ）が輝の神のオーラとなっています。

東京招致活動を支えたため、その後の準備活動も担当することになったのです。

神霊は霊位が向上すればするほど役割が増えます。

輝の神が東京オリンピックを担当しているのは、霊位が向上し、役割が大きくなったためです。

輝の会が東京オリンピックを支えているという事実を、ここまでの説明でご理解頂けると思っています。

発見と積徳の連鎖

新たな発見等を社会に発表することにより社会が豊かになる場合、発見者は社会が豊かになった分だけ徳を積むことができます。

しかし、この徳が積徳量増加や霊位上昇として還元されない場合があります。

その代わりに、最初の発見により積んだ徳に見合うだけの新たな発見（2番目の発見）を行う場合があるのです。

この場合、2番目の発見により、最初の発見で積んだ徳に見合う価値を生み出すことができます。

2番目の発見により、最初の発見で生み出された徳に見合う徳を生み出すことができる場合、最初の発見で積徳量増加や霊位向上が無くても損をしたことにはなりません。

むしろ、2番目の発見ができた分だけ得をしたこととなります。

発見により生み出される価値は、時間の経過と共に増え続けます。

2番目の発見を発表すると、徳を蓄積することができます。

最初の発見による徳の蓄積を継続しながら、2番目の発見で更に徳の蓄積を行うことが可能なのです。

2つの発見により同時に徳の蓄積を行うことができます。

その分、徳の蓄積が早くなります。

そして、この徳がさらに新しい発見として還元される場合があります。

以上の流れを図にすると、以下になります。

発見 --> 発表 --> 積徳 --> 発見 --> 発表 --> 積徳 --

このように、新たな発見を発表すると、積徳を通じて更に新たな発見を行うことが可能です。

この発見を発表すると、さらに徳が蓄積されます。

このように、発見を発表すると、発見と積徳の連鎖が起こります。

この連鎖を継続すると、莫大な積徳を行うことが可能です。

この連鎖により、新発見を続けながら、短時間で莫大な徳を蓄積することが可能なのです。

発見と積徳の連鎖（滝沢の活動実績）

滝沢の活動実績は「発見と積徳の連鎖」の好例です。

1994年度にIT戦略を銀行に提言しました。

IT 戦略はその後日本の国家戦略になりました。

その原点は滝沢の提言なのです。

ですから、IT 戦略の提言により、莫大な徳が滝沢に蓄積されました。

(徳の蓄積は現在も継続しています。以下の実績でも同様です。)

この積徳により、1997 年に VaR の性質を発見することに成功しました。

この発見は専門家が知らなかった内容です。

滝沢が独力で発見し、銀行内に伝えました。

この発見により、世界全体のリスク管理手法が高度化されました。

社会の発展に貢献したため、徳が滝沢に蓄積されました。

その後、これらの徳により、5次元を発見することに成功しました。

そして、この5次元を含む様々な内容を「釈迦を超えた日」というタイトルで 2001 年に出版しました。

この出版により、5次元を含む様々な内容を世に広めたため、徳が蓄積されました。

これらの積徳により、5次元の詳細な内容が発見することに成功しました。

これらの新たな発見内容をまとめて、「5次元理論」として 2003 年に出版しました。

この出版により 5次元を広めた功績で、徳が蓄積されました。

これらの徳により、「貨幣価値は取引の瞬間にだけ発生する」「名目経済成長率と金利水準は一致する」「日本では低金利、高名目経済成長率政策が必要である」など、様々な金融・経済理論を新発見することに成功しました。

そして、これらの内容をまとめて「マイナス金利の導入」というタイトルの論文を 2003 年に著述しました。

「マイナス金利の導入」は銀行の不良債権対策や景気対策として必須の内容だったため、日銀総裁や大臣、専門家、マスコミ等に送付しました。

その結果、低金利高名目経済成長率政策が実現しました。

その結果、不良債権問題は解決し、景気も回復しました。

「マイナス金利の導入」を記載し、配布したことにより社会は非常に豊かになりました。

その結果、莫大な徳が蓄積されました。

そして、ここまでの積徳は、5次元理論第2巻の内容の発見につながりました。

(以下、発見の詳細説明は省略します)

以上の説明でお分かり頂ける通り、発見はそれぞれつながっています。

前の発見による徳の蓄積により、後の発見が行われたのです。

現在の貨幣制度下では、仕事の成果として貨幣を貰うのが普通です。

この方法で仕事の対価を受領すると、徳はあまり蓄積されません。

発見と徳の連鎖もほとんど起こりません。
ですから、新たな発見を続けることは困難です。
その結果、多大な実績を上げることは極めて困難になります。

仕事をして貨幣を受領しない場合、発見（仕事の成果）と徳の連鎖が起こる可能性が高くなります。

この場合、大きな成果を上げることができるため、貨幣を受領しなくても損にはなりません。

以上の説明でお分かり頂ける通り、仕事の対価として貨幣を受領しない方が、より大きい成果につながる可能性が高くなります。

貨幣制度を廃止すると、仕事の成果が大きくなりやすいため、社会の発展は極めて速くなります。人類の発展速度が速くなるのです。

実績の真偽は連続性で判断可能

実績の真偽は、実績を挙げた後の状況から判断可能です。

発見と積徳の連鎖で説明した通り、新発見の理論等を発表すると、新発見を続けながら、短期間で莫大な徳を蓄積することが可能です。

ですから、新たな理論の発見・発表を続ける場合、新理論の発見・発表の実績は正しいと判断できます。

新発見の理論等の発表が嘘の場合、積徳が行われません。逆に徳を失うため、新理論の新たな発見等はできません。

その結果、新たな理論の発表等が困難になります。

このように、実績の連続性から、実績の真偽をほぼ正確に判断することができます。

滝沢（輝の会会長）は新理論等の発表を1994年度から20年間継続しています。
(2013年末には金運に関する新理論を発表しました)

1997年にVaRの性質を発見した実績が、2003年に発表したマイナス金利の導入で発表した新理論につながりました。

そして、これらの実績が、貨幣へのオプション概念の導入、外国為替理論の再構築、フラクタル経済理論 第1巻、フラクタル経済理論 第2巻などの新理論の発見につながりました。

これらの新理論発見の連続性は、これらの実績が正しいことの証明になります。

マイナス金利の導入に記載した新理論を発見・発表して広めたのが滝沢だという主張が正しいことを、ここまでの説明でご理解頂けると思います。

また、2001年に釈迦を超えた日で5次元について発表した実績は、2003年に出版した5次元理論で発表した発見につながりました。

そして、これらの実績が5次元理論第2巻、第3巻、第4巻で発表した新理論の発見につながりました。

これらの新理論の連続性も、これらの実績が全て本物であることの証明になっています。

以上の説明で、滝沢の経歴が全て正しいことをご理解頂けると思います。

金運サービスの正当性

滝沢（輝の会会長）の様々な活動実績はすべてつながっています。

（発見と積徳の連鎖（滝沢の活動実績） ご参照）

マイナス金利の導入、フラクタル経済理論等の教義を公開した結果、莫大な経済的価値が世界全体で生み出されました。

（不良債権問題を解決した最先端金融経済理論の構築、リーマンショックによる金融経済問題を解決した輝の会、失業率の大幅な低下を実現 ご参照）

その価値は既に数千兆円に達しています。

（数京円に達するまでそれほど時間がかからない状態です）

これらの教義から生み出される経済的価値は時間の経過と共に増加します。

この実績により、マイナス金利の導入、フラクタル経済理論等の著者である滝沢に徳が蓄積されます。そして、この徳が様々な形に変換されて滝沢に還元されます。

この徳の一部は金運生成自由自在という形で天から滝沢に還元されました。

（金運サービスとして提供中です）

数千兆円の経済的価値を社会に提供した結果、金運を自由自在に生成することができるようになったのです。

そして、お申込者に金運を提供することが天に許可されました。

ですから、滝沢が金運サービスの提供を開始したことは天意なのです。

また、金運生成方法を理論的に解説し、本ホームページを通じて社会に還元済です。金運生成方法は人類史上初の発見を多数組み合わせることにより構成されています。

極めて高度な内容なのです。

この高度な内容を社会に無償提供することにより、莫大な徳の蓄積が既に始まっています。

以上の説明で、滝沢が金運生成を自由に行うことができるようになった理由、及び金運サービスの正当性をご理解頂けると幸いです。

輝の会について

輝の会では、主に以下の活動を行っています。

1. 「人類救済の基本原理」「霊位上昇速度を最大にする方法」による人類全体の積徳・霊位向上の実現。

「人類救済の基本原理」は以下の内容になります。

- ・人類の浄化（歪んだ想念の消去）による徳光により自分以外の人々（含、先祖）の霊位上昇を行うと、霊位が指数関数的に急上昇するという法則。

「霊位上昇速度を最大にする方法」は以下の内容になります。

- ・全ての人々（全世界の人、祖先を含む）に対して、平等に霊位上昇を行う。
- ・全ての人々（全世界の人）に対して、平等に積徳を行う。

以上の法則を活用して、人類全体の積徳、霊位向上を最高の速度で行い続けています。これはそのまま会員自身の積徳、霊位向上を最高速度で実現することになるのです。

2. 磁気単極子エネルギー（徳、人の活動エネルギー）生成理論構築

5次元理論により、磁気単極子エネルギー（徳、人の活動エネルギー）生成方法を理論的に解明。その結果、磁気単極子エネルギー発生装置開発に成功しました、この原理により、磁気単極子エネルギー（徳）の大量生成・提供が可能になりました。1と合わせて、人類の積徳・霊位向上の速度が飛躍的に向上しています。

3. 金運サービス

金運は、お金もしくは同等の価値を受領できる運気のことです。

金運は創造神が管理しているため、必ず実現します。

輝の会では磁気単極子エネルギーを使うことにより金運を生成する方法を発見しました。金運サービスは、お申込者に金運を提供するサービスです。

4. 先祖金運サービス

先祖の金運は、子孫である私たちに影響を与えます。

先祖の金運がマイナスの場合、子孫が返済しなければなりません。しかし、先祖の金運がプラスの場合、子孫はその恩恵を受け、豊かな生活を送ることができます。

先祖金運サービスはご先祖様に金運を提供し、皆様を豊かにするサービスです。

5. 長寿サービス

輝の会では、寿命を司る生命エネルギーを発見しました。

生命エネルギーは創造神界（指導神霊を指導する神霊の世界）の神霊が、生命維持を目的として人類に提供しているエネルギーのことです。

輝の神（輝の会本尊）は創造神界に到達しているため、生命エネルギーを提供すること

ができます。その結果、寿命を大幅に延ばすことが可能です。
輝の会会員を対象に、長寿サービスを無償で提供しています。

6. 磁界エネルギー治療（がん治療・統合失調症治療・その他難病治療）受付中
本書の内容。磁界エネルギーを利用することにより、がん・統合失調症やその他の難病治療を行っています。
7. 才能強化
全ての人の才能は創造神（指導神霊を指導する神霊の世界）から提供されています。
輝の神（輝の会本尊）は創造神なので、才能を提供することができます。
才能強化をお申込頂いた方にはお申込頂いた才能を提供しています。
8. 積徳による開運のお申込受付
磁界エネルギー（徳）による開運を行っています。
2などにより生成する徳を希望者お分けします。その結果、積徳量が増えます。
積徳量が増えると夢や希望を実現する能力が高くなります。これが開運を意味します。
8. 積徳による先祖供養のお申込受付
徳（磁界エネルギー）を先祖にお分けすると、先祖の霊位（先祖の活動する世界）が大幅に向上します。
希望者の先祖供養をこの方法で行います。
1で毎日先祖供養を行っているので、短時間で大幅な霊位向上を実現できるのです。
積徳量0の先祖の霊位を天界入りさせることが可能です。（天界は指導神霊の世界）
9. 台風消去サービス
輝の会では、台風消去サービスを提供しています。
台風消去サービスの概略は以下の通りとなります。
 - a. 台風消去サービスをお申込頂いた方に徳（磁気単極子エネルギー）を提供します。
 - b. この徳の用途は台風消去に限定されます。
 - c. お申込以降に発生した台風、もしくは発生中の台風に対し、この徳を用いて台風消去を実施します。
お申込者の徳による台風消去は滝沢（輝の会会長）が行います。
 - d. 風消去サービスにお申込頂いた方には、「台風消去を行った」という実績が記録されます。台風消去は莫大な積徳行為となるのです。
10. 宗教、科学、経済の融合理論の研究、発表。
宗教、科学、経済は本来一体の理論です。一体化できていないのは各理論の完成度が不十分なためです。この完成度を高め、一体化を実現することにより、人類の真理に対する理解度は大幅に向上します。人類の行動様式は調和し、飛躍的な発展を遂げることが

可能になるのです。

1の活動が8の活動の原動力になります。新理論を発見すると莫大な徳を消費します。この徳を1の活動で生出しているのです。

積徳を行うと、活動量が増えます。学術的な新発見を行いやすくなるのです。

輝の会に入会し、人類浄化による積徳、霊位上昇を行うと、短時間で莫大な積徳を行うことが可能です。また、短時間で大幅な霊位上昇を実現できます。

積徳により、豊かな日常生活を送ることが可能になります。また、霊位は永遠の財産です。肉体消滅後も天界で幸せな生活を送ることができるのです。

(輝の会の導きにより、既に8000億人以上の先祖が天界入りを実現しています)

(2016.2.15時点)

この機会にぜひ輝の会へのご入会をご検討頂けないでしょうか。

輝の会へのご入会、各種お申込をお待ちしております。

ホームページでお申込を受け付けています。

<http://taki-zawa.net> (「輝の会」で検索して下さい)

輝の会教義はホームページ上で公開中です。

ぜひご一読頂きたいと思えます。

滝沢 輝 (たきざわあきら) の経歴・活動実績

- 1985年 宗教家としての活動を開始。
- 1989年 東京大学工学部卒業、三井銀行（現三井住友銀行） 入行
- 1994年度 「これから情報通信革命が起こる。パソコンが銀行になる。システムを戦略部門にすべきである。」 と（さくら）銀行に提言。この後、さくら銀行は日本初のインターネット専門銀行（ジャパンネット銀行）を設立する等、IT戦略で銀行業界のトップを独走。この動きが各産業界へのIT導入や日本のIT戦略へつながった。
上記提言が日本のIT戦略の原動力になったのである
- 1995年6月 総合企画部配属。ALM担当。
- 1999年7月 霊位が釈迦、イエスを超える。
- 2000年6月 5次元等研究のため、退社。
- 2000年12月31日 ピラミッド形（万物の創造原理、かつ磁界エネルギー（人の活動エネルギー）生成装置を天より授かる。
イエスの再臨である。
- 2001年9月 「釈迦を超えた日」を出版。5次元を提唱。
- 2003年2月 「5次元理論」を出版。世界がフラクタル構造（点に空間が内包されている構造）であることを理論的に解説。5次元導入による物理学の全面的な改定作業の必要性を提言。本書の出版が人工知能の大幅なレベルアップにつながった。ディープラーニングは本書が提言したフラクタル構造の応用である。
- 2003年6月 「マイナス金利の導入」を著述。
世界で最初にマイナス金利の導入を提言したのは本書である。
本書が世界のマイナス金利の原点である。
その結果、2014年にヨーロッパでマイナス金利が導入された。
また、日銀は2016年にマイナス金利を採用した。
本書では日本経済再生のため、経済の新理論を発表。名目経済成長率と金利水準が一致すべきであることを理論的に解説。1990年代以降の不景気の原因が、高すぎた金利水準であることを同時に証明。金利水準と名目経済成長率の関係を逆転させることにより景気・財政の回復を図るべきだと主張。
本書を政府・日銀等に送付後、金利を下げるべきとの認識が国内に広まり、景気回復・失業率低下の原動力となる。
アベノミクスの骨子である低金利高経済成長率政策は、「マイナス金利の導入」の無断コピーである。
- 2004年1月 フラクタル構造に電磁波を蓄える性質があることが確認される（朝日新聞の1面に掲載）。
「5次元理論」の内容の一部が学術的に確認されたことになる。
- 2005年 「5次元理論」の続編の執筆を開始。基本構造について、日本物理学界等へ送付。

2005年	天界入りを果たす。(天界は守護神霊(各種宗教の本尊クラス)の世界)
2006年11月	「5次元理論 ～その2」を著述。日本物理学会等へ送付。
2007年	「貨幣へのオプション概念の導入」「外国為替理論の再構築」を著述。各方面へ送付。
2008年6月	人類救済のため、「輝の会」設立。「人類救済の基本原理」を発表。
2009年8月	「フラクタル経済理論」を著述。バブル発生理由の理論的解明に成功。
2009年10月	「5次元理論 第3巻 認識の原理」を著述。5次元のアウトラインを解説。
2011年10月	「5次元理論 第4巻 宇宙の創造原理」を発表。
2011年11月	創造神界入りを果たす。
2011年12月	「長寿サービス」をスタート。人類の長寿化開始。キリスト教の千年王国の実現である。
2011年12月	「磁界エネルギー(オーラ)発生装置」を発表。磁界エネルギー(オーラ)を機械的に生成することに成功。
2012年2月	「5次元理論 第4巻 宇宙の創造原理」を日本物理学界へ送付。
2012年7月	野田首相に「原子力発電全廃は必須」というタイトルの提言を実施。その結果、2012年9月14日に「2030年代に原発稼働ゼロ」を目指す新しいエネルギー政策「革新的エネルギー・環境戦略」が政府から発表された。 本提言が、日本の原子力政策を正しい方向に導いたのである。
2012年11月	「フラクタル経済理論 第2巻」を発表。貨幣制度廃止の必要性を解説。その実現のために貨幣保有期間上限設定政策を提言。
2012年12月	全世界の人々に 就業可能日数 の提供を開始。 その結果、失業率が大きく改善した。
2013年7月	台風消去サービス提供開始。
2013年11月	金運サービス提供開始。金運生成方法等を公開。
2014年2月	生まれ変わり に関する解説文記載開始。
2014年3月	ご祈願 提供開始。
2014年9月	先祖金運サービス提供開始。
2014年10月	エボラ出血熱消去に成功。3868人の命を救済した。
2015年6月	喜びオーラ 提供開始。
現在	輝の会会長

2014年9月5日 輝の会活動実績 初版発行

2016年2月17日 輝の会活動実績 第5版発行

ホームページ <http://taki-zawa.net> (「輝の会」で検索して下さい)

Copyright ©Akira Takizawa all rights reserved.